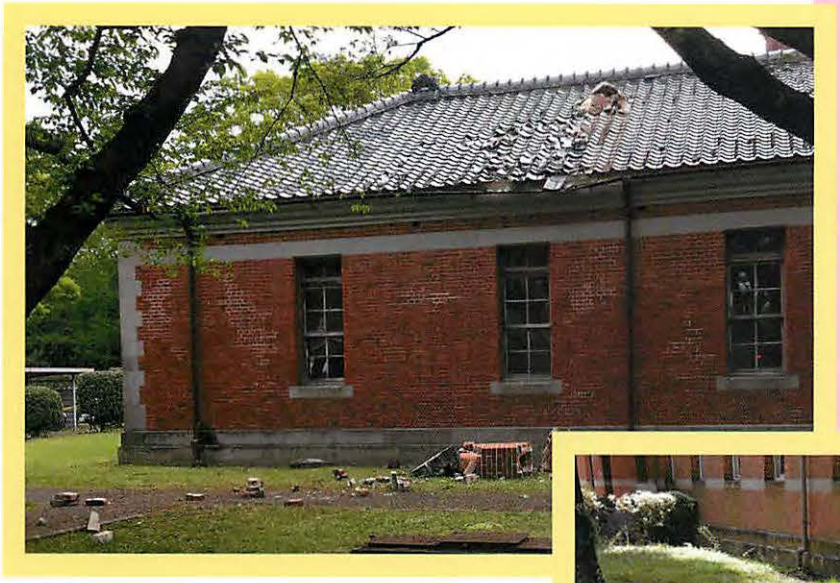
THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES
KUMAMOTO UNIVERSITY/2016

23

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2016年度



2018　熊本大学埋蔵文化財調査センター

THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES KUMAMOTO UNIVERSITY/2016

23

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2016年度

2018　熊本大学埋蔵文化財調査センター

序　文

2016年４月14日・４月16日の「熊本地震」の被害によって，2016年度熊本大学構内の発掘調査はすべて停止することとなった．「熊本地震」は，熊本大学の多くの部局・施設に甚大な被害をもたらした．埋蔵文化財調査センターも，その例外ではなかった．センターの建物，収蔵庫の壁にはひび割れが入り，備品・書籍・遺物が落下し，多くの遺物が破損した．地震後，センターの教員はもちろんのこと，調査員の方，内勤の作業員の方々全員が施設・遺物の修復に奮闘した．また，運営基盤部施設管理課・企画課も，被害状況の把握と復興計画の策定に尽力した．2016年度は，本格的な復興にそなえた一年であった．

こうした状況のなか，新たな発見もあった．深刻な被害を受けた五高記念館や化学実験棟では煙突部分が崩れ落ち，落下した煉瓦のなかから「熊本監獄製造」と刻印されたものが発見されたのである．構内の赤煉瓦建築については以前から調査にあたっていたが，今回は，より精緻な煉瓦の調査に着手した．本年報には，その成果も掲載した．ご吟味いただきたい．なお，煉瓦の調査成果については，2016年11月１日～2017年４月28日に速報展示「RENGA―遺跡から見えた近代―」を開催した．

地震後であったにもかかわらず本年報をまとめることができたのは，センターの皆さんの献身的な尽力によるものである．センターの皆さんの尽力に，この場を借りて改めてお礼申し上げる．

2018年３月

国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査センター

センター長　伊藤正彦

例　言

1．本書は熊本大学構内において，2016年４月１日から2017年３月末日まで行われた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化財調査センターの活動内容に関する年次報告書である．1502調査地点については昨年度からの継続事業で，記載内容は本年度実施分についてである．

2．構内遺跡の調査は，昨年度に引き続き，年次と調査順を表す調査番号で表すこととし，出土遺物や記録類もこの番号で整理・管理している．

3．遺跡略号は，地区ごとにローマ字３文字で以下のように表記した．黒髪町遺跡群黒髪南地区（KKS），同北地区（KKN），本庄遺跡本荘北地区（医学部附属病院構内）（HJH），同中地区（旧医学部構内）（HJM），同南地区（医学部保健学科構内）（KHJ），大江遺跡群薬学部構内（HJP），京町台遺跡教育学部附属小中学校構内（KMS），新南部遺跡群新南部地区（SNB），宇留毛神社周辺遺跡群宇留毛地区（URG），大江遺跡群渡鹿地区（OED）．

4．遺物への注記は，遺跡略号＋調査番号＋出土遺構（位置）の順で行った．

5．本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査センターにて保管している．

6．本書の執筆は，Ⅱ章を大坪志子・山野ケン陽次郎・吉留広が，Ⅲ章を山野が，その他を大坪が行った．

7．本書の編集は大坪が行った．

目　次

<本文目次>

第Ⅰ章　本年度の調査概要――――1
第Ⅱ章　調査の記録――――5
Ⅱ－1　黒髪北地区――――5
1．（黒髪）台風15号に伴う傾木の木起こし業務に伴う立会調査（1603）――――5
2．（黒髪北）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1604）――――5
3．（黒髪南）黒髪南C2改築に伴う仮設駐車場整備工事（その１）に伴う立会調査（1607）――――10
4．（黒髪南）黒髪南C2改築に伴う仮設駐車場整備工事（その２）に伴う立会調査（1608）――――10
5．（黒髪南）黒髪南C2改築に伴う仮設駐車場整備工事（その４）に伴う立会調査（1611）――――11
6．（黒髪北）屋外市水管逆止弁取付工事に伴う立会調査（1612）――――12
7．（黒髪北）給水ポンプ室東側フェンス設置工事に伴う立会調査（1632）――――12
Ⅱ－2　黒髪南地区――――13
1．（黒髪南）E9取り壊しに伴う支障配管撤去工事に伴う立会調査（1601）――――13
2．（黒髪）台風15号に伴う傾木の木起こし業務に伴う立会調査（1603）――――15
3．（黒髪南）黒髪南C2改築に伴う仮設駐車場整備工事に伴う立会調査（1605）――――15
4．（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設校舎取設工事（電気その１）に伴う立会調査（1606）――――16
5．（黒髪南）黒髪南C2仮設校舎取設工事（機械その１）に伴う立会調査（1609）――――17
6．（黒髪南）黒髪南C2仮設校舎取設工事（機械その２）に伴う立会調査（1613）――――17
7．（黒髪）黒髪南C2改築に伴う仮設校舎設置等工事（電気その２）に伴う立会調査（1614）――――18
8．（黒髪南）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1621）――――18
9．（黒髪南）理学部圃場樹木切り株撤去工事（1625）――――20
10．（黒髪南）コンプレッサー保管庫設置に伴う立会調査（1634）――――21
Ⅱ－3　本荘北地区――――22
1．（本荘北）臨床研究棟新営電気設備工事に伴う立会調査（1502）――――22
2．（本荘北）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1618）――――22
3．（医病）基幹・環境整備（旧管理棟等支障配線替）工事に伴う立会調査（1624）――――24
4．（医病）枯木樹木伐根業務に伴う立会調査（1626）――――26
5．（医病）木工室他給水管盛替工事（1631）――――26
Ⅱ－4　本荘中地区――――27
1．（本荘中・南）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1619）――――27
2．（本荘中）本荘中５災害復旧工事に伴う立会調査（1633）――――28
Ⅱ－5　本荘南地区――――30
1．（本荘中・南）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1619）――――30
2．（本荘南）本荘南１等給水設備改修工事に伴う立会調査（1628）――――30
Ⅱ－6　大江地区（薬学部）――――32
1．（大江）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1615）――――32
2．（大江南）薬草園給水管修理工事に伴う立会調査（1629）――――32
3．（大江北）薬用植物園北側樹木移植業務に伴う立会調査（1635）――――33
Ⅱ－7　京町地区――――34
1．（京町）教育学部附属小学校仮設校舎取設工事に伴う立会調査（1610）――――34
2．（京町）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1620）――――38
3．（京町）教育学部附属小学校仮設校舎取設に伴う支障配管替え工事に伴う立会調査(1623)――――39
Ⅱ－8　新南部地区――――39
1．（新南部）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1616）――――39

Ⅱ－9　宇留毛地区――41
1．（宇留毛）国際交流会館A・B棟北方中庭陥没補修工事に伴う立会調査（1602）――41
2．（宇留毛）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1617）――42
3．（宇留毛）環境整備（擁壁）災害復旧工事に伴う立会調査（1627）――44
Ⅱ－10　渡鹿地区――46
1．（渡鹿）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1622）――46
2．（渡鹿）渡鹿住宅２号棟屋外ガス管補修工事に伴う立会調査（1630）――48
第Ⅲ章　平成28年度熊本地震に係る煉瓦等落下物に関す調査報告――49
第Ⅳ章　文化財活用活動の記録――59
1．地下と地上の文化財散歩――59
2．速報展「RENGA　―遺跡から見えた近代―」――59
3．授業等への協力――60
跋文――61
Summary――62
付篇1――63
付篇2――66
付篇3――67
報告書抄録――69

＜図版目次＞

図１　黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）――2
図２　黒髪北地区西半における調査地点配置図(1/2000)――6
図３　黒髪北地区東半における調査地点配置図(1/2000)――7
図４　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）――14
図５　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）――23
図６　本荘中・南地区における調査地点配置図（1/2000）――29
図７　大江地区（薬学部）における調査地点配置図（1/2000）――33
図８　京町地区における調査地点配置図（1/2000）―35
図９　新南部地区における調査地点配置図（1/2000）――40
図10　宇留毛地区における調査地点配置図（1/2000）――42
図11　渡鹿地区における調査地点配置図（1/2000）―46
図12　黒髪北地区における煉瓦等落下物の調査地点（1/100）――51
図13　煉瓦の各部位名称と計測箇所――53
図14　五高記念館の落下煉瓦におされた刻印の拓本と写真――54
図15　イロハ歌のカタカナを使用した刻印――55
図16　五高記念館と化学実験場の落下瓦におされた刻印――55
図17「赤煉瓦基礎確認歴史的価値高く」新聞記事 ―67
図18「近代建造物　実態探る」新聞記事――68

＜写真目次＞

写真１　文法棟南側梅根本周囲掘削状況（南西より）――5
写真２　支柱掘削状況（南より）――5
写真３　№①掘削状況（南西より）――5
写真４　№②掘削状況（南西より）――5
写真５　№③掘削状況（北西より）――8
写真６　№④掘削状況（東より）――8
写真７　№⑤除根後状況（南西より）――8
写真８　№⑥除根後状況（南より）――8
写真９　№⑦除根後状況（東より）――8
写真10　№⑧掘削状況（西より）――8
写真11　№⑨掘削状況（北西より）――9
写真12　№⑩掘削状況（北より）――9
写真13　№⑪掘削状況（西より）――9
写真14　№⑫掘削状況（北より）――9
写真15　№⑬掘削状況（西より）――9
写真16　№⑭掘削状況（南西より）――9
写真17　№⑮掘削状況（南西より）――10
写真18　南側基礎撤去の様子（北より）――10
写真19　南側基礎抜き取り痕（東より）――10
写真20　試掘①地点作業風景（北西より）――10
写真21　試掘①地点掘削状況（北西より）――11
写真22　②支柱部掘削（礫除去）状況（西より）――11
写真23　⑨支柱部掘削状況（西より）――11
写真24　⑱支柱部遺構面検出状況（北より）――12
写真25　作業風景（西より）――12
写真26　掘削状況（南より）――12
写真27　西壁土層断面（東より）――12
写真28　試掘①作業風景（南より）――13
写真29　試掘①掘削状況（北より）――13

写真30　撤去物――13
写真31　重機掘削作業風景（北より）――13
写真32　人力掘削作業風景（北より）――13
写真33　掘削状況（南東より）――15
写真34　黒髪南W4西側槇根本周囲掘削作業風景（南より）――15
写真35　黒髪南W4西側槇支柱掘削状況（南より）――15
写真36　樹木周囲掘削作業風景（南西より）――16
写真37　中央樹木引き倒し状況（南西より）――16
写真38　樹木南側掘削状況（西より）――16
写真39　作業風景（東より）――16
写真40　引き抜き作業風景（南西より）――16
写真41　試掘①地点作業風景（南西より）――17
写真42　試掘①トレンチ掘削状況（南より）――17
写真43　①調査地点作業風景（東より）――17
写真44　①調査地点掘削状況（南より）――17
写真45　②調査地点作業風景（北西より）――18
写真46　②調査地点掘削状況（南より）――18
写真47　共同溝上掘削状況（西より）――18
写真48　①調査地点作業風景（南より）――19
写真49　①調査地点撤去状況（南より）――19
写真50　③調査地点樹根撤去状況（北東より）――19
写真51　④調査地点撤去状況（西より）――19
写真52　⑥調査地点作業風景（北より）――19
写真53　⑥調査地点撤去状況（北より）――19
写真54　№①作業風景（南東より）――20
写真55　№①掘削状況（南東より）――20
写真56　№①土層断面（南より）――20
写真57　№④掘削状況（南東より）――20
写真58　作業風景（南東より）――21
写真59　南側箇所掘削状況（南より）――21
写真60　東側箇所掘削状況（北東より）――21
写真61　配線西半掘削状況（南西より）――22
写真62　配線東半掘削状況（南西より）――22
写真63　外灯基礎部溝状遺構？検出状況（南西より）――22
写真64　①調査地点作業風景（南東より）――24
写真65　①調査地点作業風景（南東より）――24
写真66　①調査地点撤去状況（南東より）――24
写真67　②調査地点撤去状況（西より）――24
写真68　③調査地点作業風景（西より）――24
写真69　③調査地点撤去状況（西より）――24
写真70　A地点L字東西横断部東半作業風景（西より）――25
写真71　A地点枡部分包含層検出状況（南より）――25
写真72　A地点南北部（南半）掘削状況（北より）―25
写真73　C地点試掘②作業風景（南より）――25
写真74　C地点枡部分東壁（西より）――25
写真75　C地点試掘③掘削状況（南より）――25
写真76　作業風景（南西より）――26
写真77　掘削状況（東より）――26
写真78　作業風景（北西より）――27
写真79　掘削状況（北より）――27
写真80　土層断面（北東より）――27
写真81　①調査地点作業風景（南より）――27
写真82　①調査地点樹根撤去状況（西より）――27
写真83　②調査地点作業風景（南より）――28
写真84　②調査地点樹根撤去状況（西より）――28
写真85　作業風景（南より）――28
写真86　掘削状況（南東より）――28
写真87　③調査地点作業風景（北より）――30
写真88　調査地点樹根撤去状況（北より）――30
写真89　体育館東側ポンプ室横作業風景（北西より）――30
写真90　体育館東側ポンプ室横掘削状況（西より）―31
写真91　体育館東側ポンプ室横掘削状況（南より）―31
写真92　体育館東側地点掘削状況（北より）――31
写真93　体育館南側地点掘削状況（北より）――31
写真94　保健学科E棟南側地点(東半)掘削状況(東より)――31
写真95　東部メーター設置箇所掘削状況（南より）―31
写真96　作業風景（北西より）――32
写真97　掘削状況（南西より）――32
写真98　作業風景（南東より）――32
写真99　掘削状況（東より）――32
写真100　土層断面（南より）――33
写真101　調査区近景（北より）――34
写真102　移植先掘削状況（西より）――34
写真103　移植元作業状況（東より）――34
写真104　移植元掘削状況（東より）――34
写真105　①試掘地点作業風景（西より）――34
写真106　①トレンチ掘削状況（南より）――34
写真107　③試掘地点作業風景（南より）――35
写真108　③トレンチ掘削状況（南より）――35
写真109　④試掘地点遊具２撤去作業風景（南より）―35
写真110　④試掘地点遊具２撤去状況（南より）――36
写真111　⑤試掘地点作業風景（南より）――36
写真112　⑤試掘地点掘削状況（東より）――36
写真113　西側地点（建物内）作業風景（南東より）―36
写真114　西側地点（建物内）掘削状況（北より）――36

写真115　西側地点（建物外）掘削状況（北より）――37
写真116　南側中央地点掘削状況（西より）――37
写真117　仮設校舎１北側排水管掘削状況（北より）―37
写真118　仮設校舎２南西部排水管掘削状況（南より）――37
写真119　仮設校舎１南西部ガス管検出状況（南より）――37
写真120　仮設校舎１北西部ガス管検出作業風景（西より）――38
写真121　仮設校舎１北西部ガス管検出状況（北より）――38
写真122　①調査地点樹根撤去作業（東より）――38
写真123　①調査地点撤去状況（東より）――38
写真124　②調査地点作業風景（東より）――38
写真125　②調査地点撤去状況（西より）――38
写真126　作業風景（南西より）――39
写真127　水道管検出状況（南より）――39
写真128　樹木③作業風景（東より）――39
写真129　樹木③作業風景（南より）――40
写真130　樹木②樹根撤去状況（南西より）――40
写真131　樹木①樹根撤去状況（南より）――40
写真132　調査地点全景（東より）――41
写真133　浄化槽の天井穴検出レベル（南西より）――41
写真134　掘削作業風景（南西より）――41
写真135　掘削状況（南西より）――41
写真136　No.①作業風景（西より）――42
写真137　No.①掘削状況（西より）――42
写真138　No.②掘削状況（南東より）――43
写真139　No.③掘削状況（北東より）――43
写真140　No.④掘削状況（北西より）――43
写真141　No.⑤掘削状況（南西より）――43
写真142　No.⑥掘削状況（西より）――43
写真143　No.⑦掘削状況（東より）――43
写真144　No.⑧掘削状況（東より）――44
写真145　No.⑨掘削状況（南東より）――44
写真146　No.⑩掘削状況（北東より）――44
写真147　作業風景（北より）――45
写真148　西側擁壁ブロック除去作業風景（西より）―45
写真149　西側ブロック除去状況（西より）――45
写真150　南－北軸下段掘削状況（北より）――45
写真151　北西－南東軸下段掘削状況（北西より）――45
写真152　地山検出状況（南西より）――46
写真153　No.①作業風景（東より）――47
写真154　No.①硬化面検出状況（北西より）――47
写真155　No.①土層断面（西より）――47
写真156　No.②最終硬化面検出状況（北西より）――47
写真157　No.②掘削状況（東より）――47
写真158　No.②土層断面（東より）――48
写真159　作業風景（北東より）――48
写真160　東端既設管箇所掘削状況（南より）――48
写真161　芝生箇所掘削状況（西より）――48
写真162　熊本地震直後の五高記念館正面（南より）―49
写真163　熊本地震直後の五高記念館煙突落下状況（北東より）――49
写真164　熊本地震直後の化学実験場煙突落下状況（西より）――50
写真165　熊本地震直後の工学部研究資料館（東より）――50
写真166　工学部研究資料館の控え壁の様子（東より）――50
写真167　伐採作業の様子（北西より）――50
写真168　拓本作業の様子（北より）――50
写真169　Ａ地点の落下物（南より）――51
写真170　Ｂ地点の落下物（北より）――51
写真171　Ｃ地点の落下物（南より）――51
写真172　Ｄ地点の落下物（北西より）――51
写真173　「地下と地上の文化財散歩」黒髪地区実施状況――59
写真174　「地下と地上の文化財散歩」本荘地区実施状況――59
写真175　速報展　展示説明会実施状況――59
写真176　センター展示見学の様子――60

＜表目次＞

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧――１
表２　2016年度調査一覧――３
表３　五高記念館および化学実験場の落下煉瓦一覧表――52
表４　各調査地点の煉瓦寸法の最小値と最大値――53
表５　各調査地点の煉瓦寸法の平均値と寸法類例――53

第Ⅰ章　本年度の調査概要

平成28年４月14日，益城町を震源とする最大震度７を観測する熊本地震の前震が発生，16日にも最大震度７を観測する本震が発生した．最大震度７を観測する規模の地震に２度も襲われたのは，観測史上初の事例であり，益城町を中心に熊本県および大分県において，甚大な被害が発生した．

本学でも，多くの文化財や建物が被害を受けた．本学の歴史と象徴である，五高記念館や化学実験場，工学部研究資料館は，煉瓦造りの躯体にひびが入り，煙突が折れて落下するなどの被害がでた．また，各キャンパスの建物もその多くにひび，亀裂が入り，危険と判定された建物からは，多くの教員や学生の研究室，事務関連部署が退去を余儀なくされ，仮設スペース，仮設建物での業務再建となった．

運営基盤管理部も，そうした部署の一つである．本学が保有するキャンパスにおける，被害状況の把握と対処に，膨大な人的エネルギーと時間が投じられることとなった．

このため，本年度に計画されていた事業は，一旦保留とせざるを得ない状況となった．表１を参照するとあきらかなように，本年度に実施した調査は，立会が36件である．事業内容は，熊本地震による被害対応（仮設校舎建設など）が多くを占め，そのほかはこれまで実施に至っていなかった，平成27年の台風第15号による被害倒木の撤去作業が実施された．

これらの事業は，もともと規模が小さく，また復興に関する事業は迅速性を考慮して，埋蔵文化財に影響がないような設計が主であった．このため，発掘調査は実施されなかった．

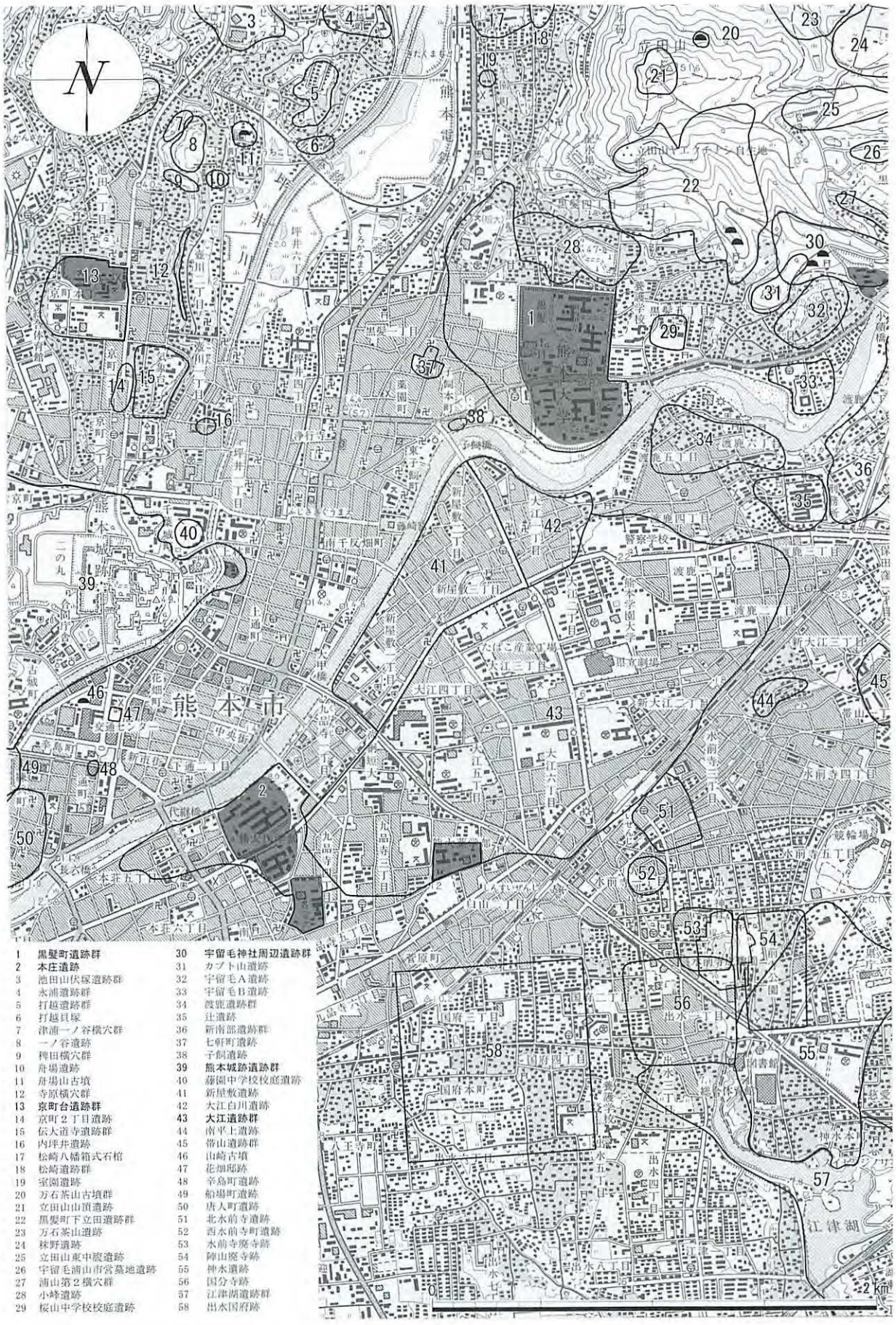
この中で，二つの興味深い結果を得ることができた．一つは，1611調査地点である．震災により，黒髪南地区にあった駐車場に仮設校舎を建設することになったため，黒髪北地区の運動場武夫原に仮設の駐車場を設けることになった．1611調査地点は，仮設駐車場の周囲にフェンスを設置する工事に伴った調査である．18か所にわたる支柱部分の掘削で，遺物包含層や遺構面（地山）を検出する深さを細かく把握することができた．これは，黒髪北キャンパスの旧地形を復元するにあたっての，有用な情報である．

もう一つは，五高記念館を形作る煉瓦の製造に関する

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

No.	地区名（学部名）	所　在　地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備　　考
1	黒髪北地区（法・文・教・大教センター） 黒髪東地区（教育学部附属特別支援学校）	熊本市中央区黒髪２丁目40-1 熊本市中央区黒髪５丁目17-1	黒髪町遺跡群	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
2	黒髪南地区（工・理）	熊本市中央区黒髪２丁目39-1	黒髪町遺跡群	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
3	京町地区（教育学部附属小・中学校）	熊本市中央区京町本丁5-12	京町台遺跡群	集落址	弥生・近世	
4	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本市中央区城東町5-9	熊本城址	城館址・熊本城関連遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市東区新南部６丁目5-8	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	沿岸域環境科学教育研究センター	上天草市松島町大字合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査によって貝塚でないことが判明
7	本荘中地区（発生医学研究所，エイズ学研究センター等）	熊本市中央区本荘２丁目2-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	
8	本荘北地区（医学部附属病院・医学部等）	熊本市中央区本荘１丁目1-1	本庄遺跡（熊大病院敷地遺跡）	散布地・集落址・墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近代	
9	本荘南地区（保健学科等）	熊本市中央区九品寺４丁目24-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	周辺遺跡
10	大江地区（薬学部等）	熊本市中央区大江本町5-1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	渡鹿地区（課外活動施設）	熊本市中央区渡鹿４丁目1-1	大江遺跡群	集落址	奈良・平安	
12	宇留毛地区（学生寄宿舎・職員宿舎等）	熊本市中央区黒髪７丁目	宇留毛神社周辺遺跡群	散布地	弥生・奈良・平安	

図１　黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）



1	**黒髪町遺跡群**	30	**宇留毛神社周辺遺跡群**
2	**本庄遺跡**	31	カブト山遺跡
3	池田山伏塚遺跡群	32	宇留毛Ａ遺跡
4	永浦遺跡群	33	宇留毛Ｂ遺跡
5	打越遺跡群	34	渡鹿遺跡群
6	打越貝塚	35	辻遺跡
7	津浦一ノ谷横穴群	36	新南部遺跡群
8	一ノ谷遺跡	37	七軒町遺跡
9	稗田横穴群	38	子飼遺跡
10	舟場遺跡	39	**熊本城跡遺跡群**
11	舟場山古墳	40	藤園中学校校庭遺跡
12	寺原横穴群	41	新屋敷遺跡
13	**京町台遺跡群**	42	大江白川遺跡
14	京町２丁目遺跡	43	**大江遺跡群**
15	伝大道寺遺跡群	44	南平上遺跡
16	内坪井遺跡	45	帯山遺跡群
17	松崎八幡箱式石棺	46	山崎古墳
18	松崎遺跡群	47	花畑邸跡
19	室園遺跡	48	辛島町遺跡
20	万石茶山古墳群	49	船場町遺跡
21	立田山山頂遺跡	50	唐人町遺跡
22	黒髪町下立田遺跡群	51	北水前寺遺跡
23	万石茶山遺跡	52	西水前寺町遺跡
24	林野遺跡	53	水前寺廃寺跡
25	立田山東中腹遺跡	54	陣山廃寺跡
26	宇留毛浦山市営墓地遺跡	55	神水遺跡
27	浦山第２横穴群	56	国分寺跡
28	小峰遺跡	57	江津湖遺跡群
29	桜山中学校校庭遺跡	58	出水国府跡

表２　2016年度調査一覧

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
16・8・8	１６０１	（黒髪南）E9取り壊しに伴う支障配管撤去工事	立会調査	1.53㎡	なし	なし
16・9・12	１６０２	（宇留毛）国際交流会館Ａ・Ｂ棟北型中庭陥没補修工事	立会調査	44.73㎡	なし	なし
16・11・4	１５０２	（本荘北）臨床研究棟新営電気設備工事	立会調査	12.54㎡	なし	土師器
16・11・9	１６０３	（黒髪）台風15号に伴う傾木の木起こし業務	立会調査	42.16㎡	なし	なし
16・11・10, 17・1・16～17	１６０４	（黒髪北）台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	86.25㎡	なし	なし
16・11・11	１６０５	（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設駐車場整備工事	立会調査	123.22㎡	なし	なし
16・12・1	１６０６	（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設校舎取設工事（電気その１）	立会調査	11.87㎡	なし	なし
16・12・5	１６０７	（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設駐車場整備工事（その１）	立会調査	0.48㎡	なし	なし
16・12・5	１６０８	（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設駐車場整備工事（その２）	立会調査	2,465.00㎡	なし	なし
16・12・6	１６０９	（黒髪南）黒髪南 C2仮設校舎取設工事（機械その１）	立会調査	335.00㎡	なし	なし
16・12・16, 27, 17・2・1	１６１０	（京町）教育学部附属小学校仮設校舎取設工事	立会調査	416.10㎡	なし	弥生土器
16・12・20～28	１６１１	（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設駐車場整備工事（その４）	立会調査	11.35㎡	古代・近代	住居？・土師器・須恵器・石器・磁器
17・1・16	１６１２	（黒髪北）屋外市水管逆止弁取付工事	立会調査	5.37㎡	なし	なし
17・1・18	１６１３	（黒髪南）黒髪南 C2仮設校舎取設工事（機械その２）	立会調査	623.00㎡	なし	なし
17・1・18	１６１４	（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設校舎取設工事（電気その２）	立会調査	45.80㎡	なし	なし
17・1・18	１６１５	（大江）台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	96.25㎡	なし	なし
17・1・19	１６１６	（新南部）台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	32.50㎡	なし	なし
17・1・23	１６１７	（宇留毛）台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	106.50㎡	なし	弥生土器
17・1・23	１６１８	（本荘北）台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	19.50㎡	なし	なし
17・1・23	１６１９	（本荘中・南）台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	8.50㎡	なし	なし
17・1・26	１６２０	（京町）台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	10.25㎡	なし	なし
17・1・30	１６２１	（黒髪南）台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	41.75㎡	なし	なし
17・1・30	１６２２	（渡鹿）台風15号に伴う被害樹木除根業務	立会調査	15.25㎡	なし	なし
13・2・1	１６２３	（京町）教育学部附属小学校仮設校舎取設に伴う支障配管替え工事	立会調査	62.3㎡	なし	なし

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
17・2・6	１６２４	（医病）基幹・環境整備（旧管理棟等支障配管替）工事	立会調査	220.50㎡	近世？	土師器・須恵器・陶器
17・2・7～8	１６２５	（黒髪南）理学部圃場樹木切り株撤去工事	立会調査	56.00㎡	なし	なし
17・2・10	１６２６	（医病）枯木樹木伐根業務	立会調査	7.10㎡	なし	なし
17・2・14・22～24	１６２７	（宇留毛）環境整備（擁壁）災害復旧工事	立会調査	157.15㎡	なし	なし
17・2・15	１６２８	（本荘南）本荘南１等給水設備改修工事	立会調査	1015.80㎡	なし	なし
17・2・28	１６２９	（大江南）薬草園給水管修理工事	立会調査	1.00㎡	なし	なし
17・3・1, 17	１６３０	（渡鹿）渡鹿住宅２号棟屋外ガス管補修工事	立会調査	20.1㎡	なし	なし
17・3・2	１６３１	（医病）木工室他給水管盛替工事	立会調査	7.00㎡	なし	なし
17・3・6, 9	１６３２	（黒髪北）給水ポンプ室東側フェンス設置工事	立会調査	3.04㎡	なし	なし
17・3・13	１６３３	（本荘中）本荘中５災害復旧工事	立会調査	271.00㎡	なし	なし
17・3・14	１６３４	（黒髪南）コンプレッサー保管庫設置	立会調査	12.28㎡	なし	なし
17・3・22	１６３５	（大江北）薬用植物園北側樹木移植業務	立会調査	15.25㎡	なし	なし

情報である．国の重要文化財に指定されている旧第五高等中学校本館および化学実験場も，今回の地震により甚大な被害を受けた．倒壊は免れたが，煙突などが崩落してしまった．建物を覆う煉瓦は，熊本監獄収容者の労働力によって製造されたとされていたが，これまで考古学的な確認はなされていなかった．そこで今回，破損部分の煉瓦を用いて法量や製造法など，普段観察することができない部分の精査を実施した．その結果，多くの情報を得ることができた．詳細は第Ⅲ章を参照されたい．

平成29年度は，保留となった事業の再開および復興に向けた事業の実施など，埋蔵文化財調査センターと運営基盤管理部ほか関連部署との密な連携と努力が求められる．これまでに蓄積してきた調査成果を十分に活かしつつ，復興事業に取り組みたい．

末尾ながら，熊本地震により被災されたすべての方に，お見舞い申し上げます．

第Ⅱ章　調査の記録

Ⅱ－1　黒髪北地区　（図2・3参照）

1．（黒髪）台風15号に伴う傾木の木起こし業務に伴う立会調査（1603）

＜調査期間＞

2016年11月9日

＜調査面積＞

42.16㎡（0.84㎡）

＜調査員＞

大坪志子・吉留　広.

＜調査概要・結果＞

本工事は，黒髪北地区の文・法学部棟の南側において，平成27年の台風第15号による影響で，倒木の被害にあった樹木の復旧作業である．根元周囲を0.2mほど掘り起こし，水で軟らかくした後に重機で倒れた木を正位置に戻した．支柱は直径0.2m，深さ0.2mを掘削した．いずれも埋土内で遺構・遺物の検出はなかった．

写真1　文法棟南側梅根本周囲掘削状況（南西より）

写真2　支柱掘削状況（南より）

2．（黒髪北）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1604）

＜調査期間＞

2016年11月9日，2017年1月16・17日

＜調査面積＞

86.25㎡（32.09㎡）

＜調査員＞

大坪志子・吉留　広.

＜調査概要・結果＞

本工事は，平成27年の台風第15号の影響で，倒木の被害にあった樹木15本の除根業務に伴う立会調査である．樹木には№①～⑮の番号を付し，順に説明する．

№①センダンは，福利施設の南西側駐車場の東端に位置し，路面より縁石の高さは0.1m高くなっている．0.6×0.9mの範囲を縁石の高さから0.35mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真3　№①掘削状況（南西より）

№②コナラは，福利施設西側の喫煙所付近に位置する．1.3×1.4mの範囲を，地表下0.4mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真4　№②掘削状況（南西より）

図２　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）

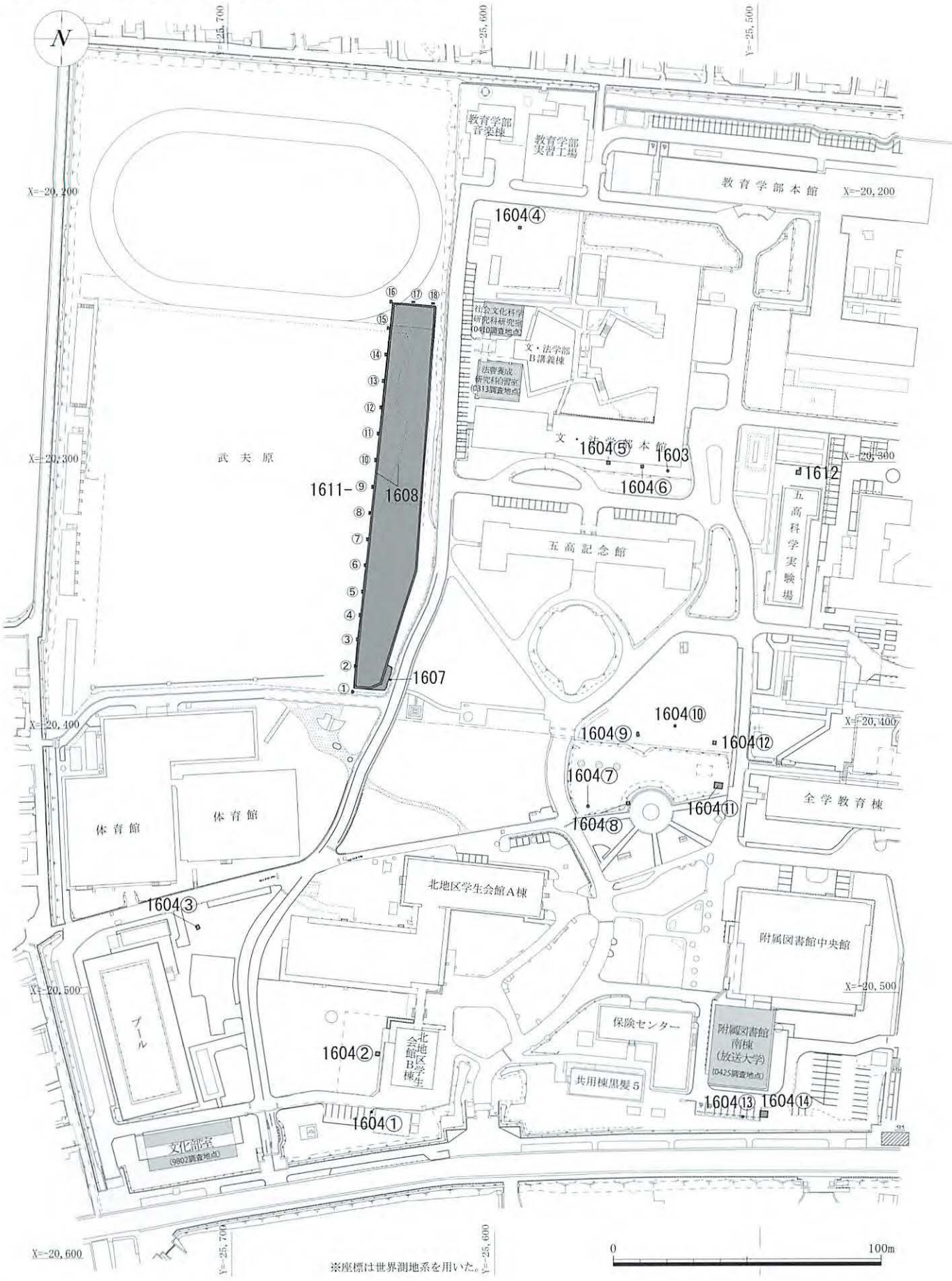
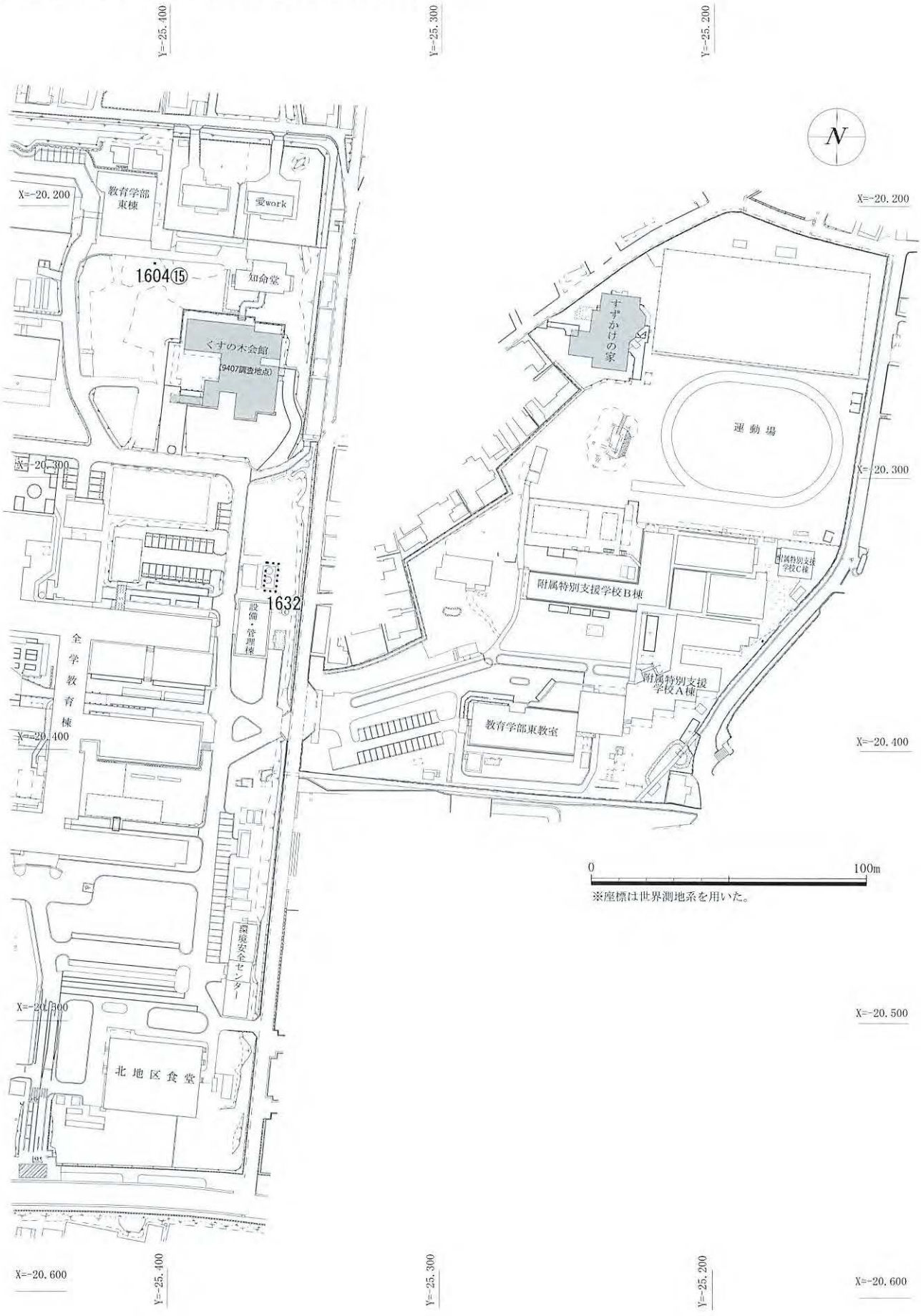


図３　黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000）



No.③チシャノキは，プール附属家の北東隅より11.3m東側，3.8m南側に位置する．1.40×1.65mの範囲を地表下0.25mまで掘削した．現代埋土内におさまった．

写真５　No.③掘削状況（北西より）

No.④サクラは，教育学部実習工場の南西隅より6.6mほど南側に位置する．0.8×0.8mの範囲を，地表下0.3mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真６　No.④掘削状況（東より）

No.⑤ウメは，文法学部本館の南側玄関より20m東側に位置する．1.2×1.3mの範囲を，地表下0.1mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真７　No.⑤除根後状況（南西より）

No.⑥イチジクは，No.⑤より10m東側に位置する．1.0×1.0mの範囲を，地表下0.3mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真８　No.⑥除根後状況（南より）

No.⑦ヒマラヤスギは，五高記念館の表門より20.0mほど南側に位置する．1.5×1.0mの範囲を，地表下0.2mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真９　No.⑦除根後状況（東より）

No.⑧サクラは，五高記念館の表門より30.0m南東側にに位置する．2.0×2.0mの範囲を，地表下0.54mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真10　No.⑧掘削状況（西より）

No.⑨サクラは，五高記念館の表門より20.0mほど東側に位置する．0.9×1.4mの範囲を，地表下0.4mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真11　No.⑨掘削状況（北西より）

No.⑩エノキは，五高記念館の表門より東側に35.0mほど離れたところに位置する．0.7×0.8mの範囲を，地表下0.3mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真12　No.⑩掘削状況（北より）

No.⑪マツは，全学教育棟の最も南に位置する校舎の西側11mに位置する．2.2×2.6mの範囲を，地表下0.2～0.9mまで掘削した．中央に南北方向で幅0.6mのヒューム管があったため，ヒューム管の掘方内におさまった．

写真13　No.⑪掘削状況（西より）

No.⑫サクラは，五高記念館の表門より53.0mほど東側に位置する．1.2×1.2mの範囲を，地表下0.2mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真14　No.⑫掘削状況（北より）

No.⑬モクセイは，附属図書館南棟の南側に位置する．0.7×0.7mの範囲を，地表下0.35mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真15　No.⑬掘削状況（西より）

No.⑭マツは，附属図書館南棟の南側の駐車場内に位置する．掘削範囲は盛り土がされており，中心は地表より0.5mほど高くなっていた．2.3×2.8mの範囲を，地表下0.1mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真16　No.⑭掘削状況（南西より）

№⑮カイズカイブキは，教育学部東棟の南東端から6.85m南側に位置する．0.50×0.50mの範囲を地表下0.25mまで掘削した．すべて現代埋土内におさまった．

写真17　№⑮掘削状況（南西より）

№①～⑮すべての箇所において，遺構・遺物の検出はなかった．

3．（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設駐車場整備工事（その１）に伴う立会調査（1607）

＜調査期間＞

2016年12月５日

＜調査面積＞

0.48㎡（0.09㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

本工事は，武夫原の周囲に設置されているフェンスの一部を撤去し，仮設駐車場建設工事用の車両の進入路を確保する工事である．

南西部の３本のフェンス支柱を撤去する予定であったが，南側の１本は中止とした．フェンスは地上部分を撤去した状態で，基礎ブロックの抜き取りに立ち会った．

写真18　南側基礎撤去の様子（北より）

写真19　南側基礎抜き取り痕（東より）

２本のうち，南側の基礎ブロックは，ワイヤーを掛けて重機で引き抜き，埋蔵文化財には影響なかった．北側のブロックは，仕様が異なり引き抜くことができなかったため，撤去は中止とした．遺物や遺構の検出はない．

4．（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設駐車場整備工事（その２）に伴う立会調査（1608）

＜調査期間＞

2016年12月５日

＜調査面積＞

2,465.0㎡（2.23㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

本工事は，仮設駐車場設置予定地の除草を兼ねたすき取りと，縁石を設置する工事である．

すき取りは２cm程度であるため，より深い縁石設置の範囲で試掘を３箇所実施した．予定地の東側は側溝に沿って設置し，ほぼ側溝設置時の掘方内に入る．このため，西側２箇所と北側１箇所を試掘した．0.7×1.0m程度の範囲を，８～12cm掘削したが，いずれもグラウンド

写真20　試掘①地点作業風景（北西より）

写真21　試掘①地点掘削状況（北西より）

の表層を形成する真砂土内である．遺物や遺構の検出はなく，慎重に作業を進めるように指示して，終了した．

5．（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設駐車場整備工事（その４）に伴う立会調査（1611）

＜調査期間＞

2016年12月20～28日

＜調査面積＞

9.90㎡（11.35㎡）

＜調査員＞

大坪志子・吉留　広．

＜調査概要・結果＞

武夫原（運動場）に設けた仮設駐車場を囲む，フェンスの支柱部分の掘削に立ち会った．

工事は1.0×0.5mの範囲を0.6m 程度掘削し，支柱が入る中央部をオーガでさらに掘削するものである．そこで，1.0×0.5m，地表下0.6mまで掘削したところで，一度土壌を確認し，支柱部を0.5m四方掘削して，遺物包含層や遺構面の有無等を確認した．グリッドは，南から⑱まで番号を付した．

1.0×0.5mの掘削は，①からおこなった．①～⑤・⑥⑩⑫⑬は遺物包含層とそれらしき土層を検出した．⑦～⑨・⑪⑭は攪乱もしくは近代耕作土中である．⑰⑱も遺物包含層に達した．いずれも遺物包含層や遺構面に達する可能性が高いと判断し，次に支柱部分を掘削した．

支柱部分の掘削は⑱からおこなった．最も北に位置する⑯と⑮で，ヒューム管が一部範囲内を南北に通っていることが判明した．フェンスを屈曲させることができず，南北に並ぶ①～⑯すべての支柱部分を東側に若干ずらすことになった．このため，グリッドの平面形は，凸状となった．

①～③は，地表下0.9～1.17mで遺構面を検出した．①②遺構はなかった．③は，地表下1.09mで硬化面のような土層を検出したため，エレベーションをおこなった．④⑤は地表下1.5m前後まで掘削したが，攪乱であった．⑥～⑩は地表下1.5mまで掘削したところ，遺物包含層と思われる綺麗な土層の途中である．これ以上の掘削が困難であり，オーガによる掘削もこの程度であったので，確認はここまでとした．⑫は地山を確認できた．遺構はなかった．⑪・⑬～⑯は地表下0.7m 前後まで掘削した．この深さまでは攪乱で，瓦礫が障害となりこれ以上の掘削は行っていない．⑮・⑯は，⑰⑱の土層状況から遺構面は削平されていると判断した．⑰は地表下0.65m，⑱は地表下0.47mで遺構面を確認したが，遺構はなかった．

念のために，各グリッドのエレベーションをおこなった．グリッドは仮設駐車場を巡る縁石のそばであるため，各グリッドの中央付近に相当する縁石上面を計った．また，土層は地表面からの計測であるため，縁石と地表面との落差を確認し，絶対値で土層の比較ができるようにした．エレベーションの結果，平坦に見える武夫原は，北に向かって高くなっており，①と⑮のグリッド間の比高差は0.6m程度になることが判明した．

黒髪北地区は段丘をいくつか均して造成しており，校舎が建つエリアでは，歩道が傾斜でそれを確認すること

写真22　②支柱部掘削（礫除去）状況（西より）

写真23　⑨支柱部掘削状況（西より）

写真24　⑱支柱部遺構面検出状況（北より）

ができる．今回，武夫原も傾斜していることが判明し，段丘の位置関係なども含め，単純に遺物包含層や遺構面を検出する深さを想定できないことが判明した．

この段丘の形成要因は，河岸段丘と考えていたが，段差規模から断層ではとの指摘がある．

今後は，今回のエレベーションの結果を考慮し，工事に臨む必要がある．

6．（黒髪北）屋外市水管逆止弁取付工事に伴う立会調査（1612）

＜調査期間＞

2017年１月16日

＜調査面積＞

4.0㎡（5.37㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

本工事は，既設のメーターボックス付近で，既設の水道管を探し，逆止弁を設置する工事である．

メーターボックスの東側で既設の水道管を検出し，そこに逆止弁を設置する予定で，メーターボックスの東側を掘削した．水道管を発見したが0.6m東には南北方向に共同溝があり，逆止弁を設置する空間を確保できず，また水道管の形状からも予定地点では施工できないことが判明した．

そこで，メーターボックスと，南側にある東西方向の共同溝との間1.5×1.5mの間に設置することとした．変更は，熊本市文化振興課に連絡し，許可を得て実施した．

埋土内であり，遺構・遺物の検出はなかった．

写真25　作業風景（西より）

写真26　掘削状況（南より）

写真27　西壁土層断面（東より）

7．（黒髪北）給水ポンプ室東側フェンス設置工事に伴う立会調査（1632）

＜調査期間＞

2017年３月６日，９日

＜調査面積＞

3.04㎡（0.81㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

給水ポンプ室と一連のタンク・配管等を囲むフェンスを東側に拡張し，既存フェンスの一部を撤去する工事である．

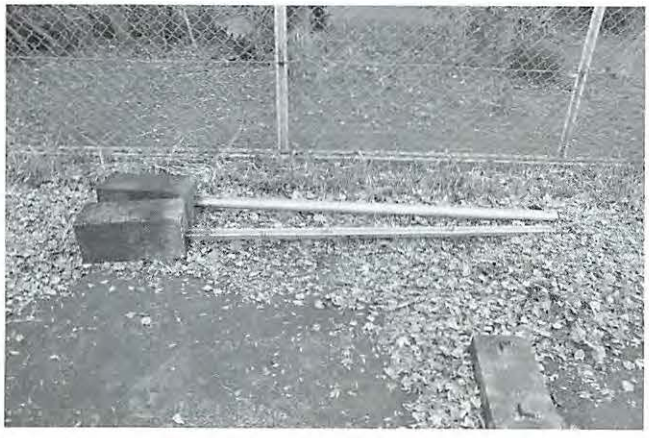
新設のフェンスの基礎は，一辺0.25m，長さ0.45mの四角柱である．これを11ヶ所に設置する．このため，4ヶ所において試掘をおこなった．手掘りで，一辺0.3m，深さ0.4m前後を掘削したが，いずれも埋土内で遺構や遺物の検出はなかった．

また，既存の同等の基礎は，人力で簡単に引き抜くことができた．掘削を伴わず，埋蔵文化財への影響はない．

写真28　試掘①作業風景（南より）

写真29　試掘①掘削状況（北より）

写真30　撤去物



Ⅱ－2　黒髪南地区　（図4参照）

1．（黒髪南）E9取り壊しに伴う支障配管撤去工事に伴う立会調査（1601）

＜調査期間＞

2016年8月8日

＜調査面積＞

10㎡（1.53㎡）

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区E9と理学部圃場倉庫の間にある給水・汚水の配管撤去工事に係る立会を実施した．

黒髪南E9から約28m南西，道路と大学敷地の境に設置されたフェンスから1.7m南東の位置に1.1×0.7mの試掘坑を設けた．本範囲を重機により掘削したところ，目標とする汚水配管を地表下0.2mで確認できた．もう一つの支障配管の位置を明らかにするため，試掘坑を南東方向に1.7×0.45m拡張したところ，攪乱を受けていない褐色砂層が地表下0.4mで検出された．本土層は1310調

写真31　重機掘削作業風景（北より）

写真32　人力掘削作業風景（北より）

図４　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）

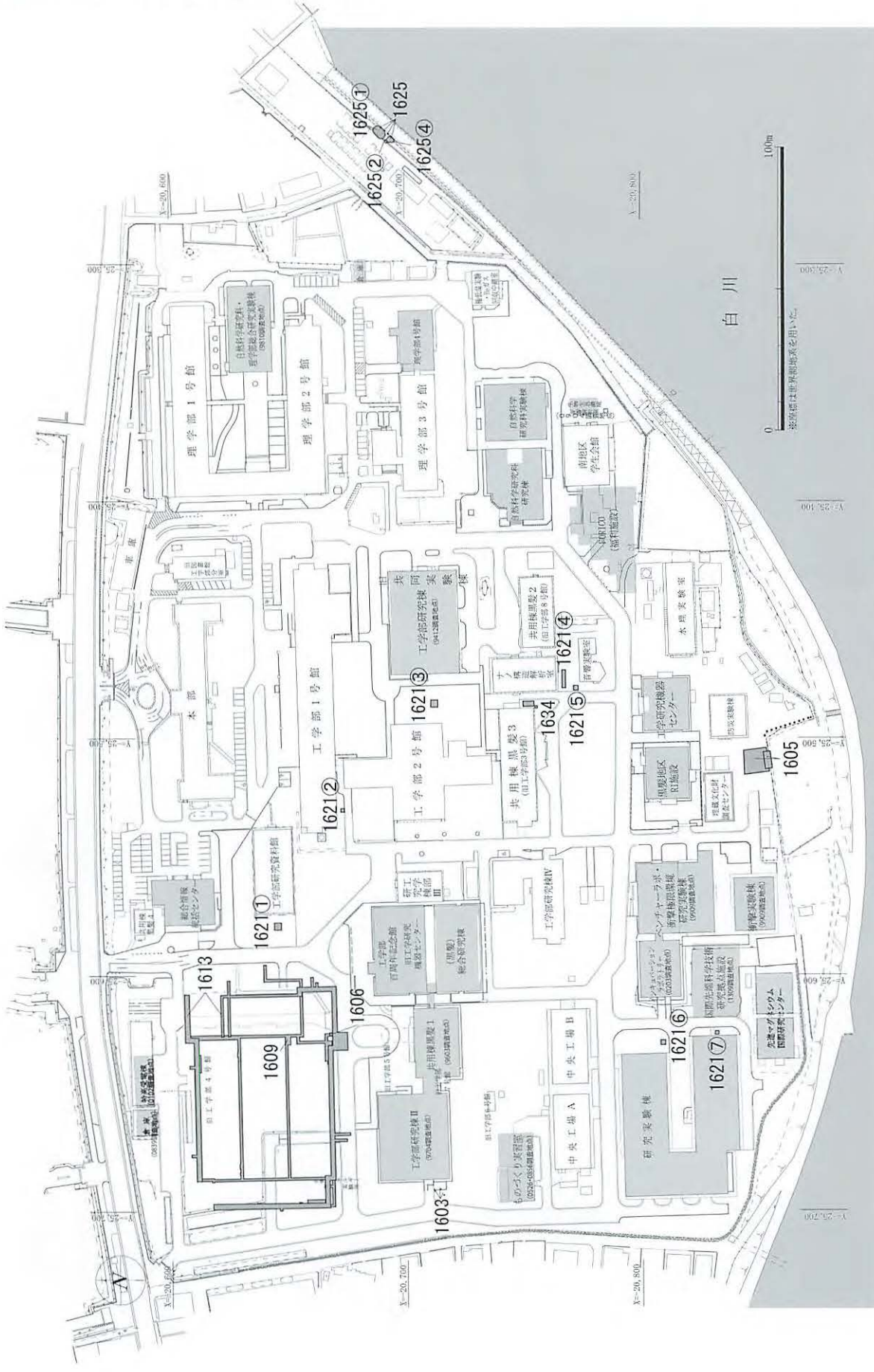


写真33　掘削状況（南東より）

査地点などで縄文時代後晩期の土器が検出された文化層と思われる．この褐色砂層の一部が攪乱されていたため，人力により現代埋土のみを掘り下げたところ，地表下0.7mで目的とする給水配管を確認できた．作業スペースの確保のため地表下0.85mまで掘り下げたが，掘削は全て現代埋土内におさまった．遺物・遺構の検出はなかった．

2．（黒髪）台風15号に伴う傾木の木起こし業務に伴う立会調査（1603）

＜調査期間＞

2016年11月９日

＜調査面積＞

42.16㎡（0.28㎡）

＜調査員＞

大坪志子・吉留　広．

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区の黒髪南 W4の西側に植栽されていた3本の槇が，平成27年の台風第15号により傾いたため，この木起こし業務をおこなった．

最も南の木の東側を0.2mほど掘削し，重機で木を直立させた．支柱は直径0.3m，深さ0.25mである．黒髪南

写真34　黒髪南 W4西側槇根本周囲掘削作業風景（南より）

写真35　黒髪南 W4西側槇支柱掘削状況（南より）

W4を建設する際の調査では（9704調査地点），旧グラウンドの造成のために地表下２m近くまで掘削されていることを確認している．この深さでは，埋蔵文化財に影響は無いと判断し，残り２本についても同様の深さで施工するよう指示して，立会を終えた．

3．（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設駐車場整備工事に伴う立会調査（1605）

＜調査期間＞

2016年11月11日

＜調査面積＞

123.22㎡（21.3㎡）

＜調査員＞

大坪志子・吉留　広．

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区西側にある駐車場に，震災被害のため取り壊しが決定した工学部１号館の代わりとなる仮設校舎を建設することになった．このため，黒髪南地区南端の土地を駐車場として整備することになった．

敷地予定地の西北隅のブロック塀新築予定箇所は，工事が中止となった．

予定地北側には，３本の樹木が東西に並んであったが，整備に邪魔となり，撤去となった．樹根が大きく，周囲を予定より広く掘削する必要が生じたため，急きょ熊本市文化振興課の許可を得て必要な範囲を掘削した．

樹木の北側と南側はもともと１mほど段差があり，南側が低い．もっとも西側の樹木は，北側を１mほど，南側はもとの地盤よりは0.5mほどを掘削し，根を切断したのちに引き倒して撤去した．中央の樹木も，南側を掘削したのち，引き倒して撤去した．もっとも東側の樹木は，周囲を掘削せずとも，引き倒して撤去できた．この掘削では，遺物包含層や遺構面は検出されず，遺物も出土しなかった．

古いフェンス支柱のうち，大型のコンクリート支柱は，地中で折り取ることになった．東側は駐車場整備のための盛土内におさまり，北側も埋土中である．小さいコンクリート支柱は，人力で引き抜き，掘削を伴わなかった．

写真36　樹木周囲掘削作業風景（南西より）

写真37　中央樹木引き倒し状況（南西より）

写真38　樹木南側掘削状況（西より）

4．（黒髪南）黒髪南 C2改築に伴う仮設校舎取設工事（電気その１）に伴う立会調査（1606）

＜調査期間＞

2016年12月１日

＜調査面積＞

11.87㎡（1.89㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

本工事は，仮設校舎を建設するにあたって，障害になる外灯を撤去し，別地点に外灯を設置する工事である．

移設する外灯の撤去工事から実施した．重機で外灯の基礎周辺を慎重に掘削し，旧地表から0.9m以降は手掘りに変えて1.25mまで掘削した．その後，紐をかけて重機により引き抜いた．遺物包含層や遺構面に達することはなく，遺物の出土もなかった．

新設予定であった外灯については，実際に建設された仮設校舎との関係上，建設が困難になり中止となった．

写真39　作業風景（東より）

写真40　引き抜き作業風景（南西より）

5．（黒髪南）黒髪南 C2仮設校舎取設工事（機械その１）に伴う立会調査（1609）

＜調査期間＞

2016年12月６日

＜調査面積＞

335.0㎡（6.2㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

本工事は，黒髪南地区の駐車場に仮設校舎を建設するにあたって，給排水管を敷設する工事である．工事範囲内で，掘削深度と予定範囲全体をカバーすることなどを考慮して，試掘地点を４箇所設定した．

南西側では最も深い１ｍを掘削予定であった．現状では，0.5ｍ程度の盛り土を工事範囲内で施工しているので，旧地表面からは0.5ｍ程度の掘削である．掘削は埋土内におさまり，遺構・遺物の検出はなかった．予定範囲の北側，中央付近も同様である．

給水管を共同溝から分岐し，引き出す箇所は，最も深い1.2ｍの深さが予定され，盛り土の範囲外であった．分岐予定箇所から，西へ長さ2.7ｍ，幅1.1ｍの範囲を，地表下1.2ｍ前後まで掘削した．現代埋土の下は近世耕作土と考えられる土層で，古代の遺物包含層や遺構面には達しなかった．

写真41　試掘①地点作業風景（南西より）

写真42　試掘①トレンチ掘削状況（南より）

6．（黒髪南）黒髪南 C2仮設校舎取設工事（機械その２）に伴う立会調査（1613）

＜調査期間＞

2017年１月18日

＜調査面積＞

623.0㎡（4.07㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

本工事は，仮設校舎建設予定地内および周辺に，排水管を敷設する工事である．ただし，仮設校舎建設予定地内は，先に実施した同工事（機械その１）における試掘で状況が把握できているため，この範囲から外れる箇所において試掘・立会を実施した．①・②調査地点は，仮設校舎建設予定地から外れ盛り土もないため，掘削の起点となるGLが低く，また掘削深度が最も深いため，この２箇所とした．

写真43　①調査地点作業風景（東より）

写真44　①調査地点掘削状況（南より）

写真45　②調査地点作業風景（北西より）

写真46　②調査地点掘削状況（南より）

①調査地点は，既設枡に排水管をつなぐ管路である．1.1×1.9mの範囲を，地表下0.8mまで掘削した．埋土内で，遺構・遺物の検出はない．0.8mの深さの土壌は，砂層であった．昭和28年の洪水時のものである可能性が高い．

②調査地点も，既設枡に排水管をつなぐ管路である．1.1×1.8mの範囲を，地表下1.2mまで掘削した．ここでもやはり砂層を検出した．遺構・遺物の検出はない．

7．（黒髪）黒髪南C2改築に伴う仮設校舎設置等工事（電気その２）に伴う立会調査（1614）

＜調査期間＞

2017年１月18日

＜調査面積＞

45.8㎡（４㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

本工事は，黒髪南地区駐車場に建設中の仮設校舎に電気配線をつなぐ工事である．予定地の北東隅において，共同溝から電気配線を引き，新設のキュービクルを通して校舎につなげるものである．

共同溝の取り出し予定箇所を掘削し，そのまま西へ予定管路を掘削すると，共同溝の上で立会の必要はなかった．また，キュービクル設置状況と，校舎への配線状況を業者に確認したところ，ほぼ掘削の必要がなく，必要な箇所も，機械設備工事によって既に確認済みの深さであることが判明した．慎重に工事を行うよう指導し，立会を終了した．

写真47　共同溝上掘削状況（西より）

8．（黒髪南）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1621）

＜調査期間＞

2017年１月30～31日

＜調査面積＞

41.75㎡（39.66㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

平成27年の台風第15号によって倒木の被害を受けた樹木を撤去する業務である．黒髪南地区では，７箇所で撤去作業をおこなった．

①調査地点は，国指定重要文化財の工学部資料館の西側歩道に植栽されていたもので，マキの１本を撤去するものである．

花壇のように縁石で囲われている中で，縁石上縁から深さ0.6～0.7mの掘削をおこなった．歩道に位置するため掘削開始レベルが周囲より高く，通常GLとする道路面からは0.4mの掘削である．埋土内でおさまった．遺構・遺物の検出はない．

②調査地点は，工学部１号館南側，西端近くに位置する．ヤマモモの切り株の周囲0.8×0.7mを0.15mほどすき取り，重機で引き倒して撤去した．埋土内である．

写真48　①調査地点作業風景（南より）

写真49　①調査地点撤去状況（南より）

③調査地点は，工学部２号館東側にある中庭に位置し，マキ1本の切り株を撤去するものである．樹木の周囲を直径約３ｍの円形に，深さ１ｍほど掘削し，根をカットしながら引き上げた．埋土内でおさまった．

写真50　③調査地点樹根撤去状況（北東より）

④調査地点は，共同製図室の南側に位置し，カイヅカイブキ７本を撤去するものである．

いずれも，周囲を0.15～0.2ｍほどすき取り，重機で引き倒して撤去した．埋土内でおさまった．

写真51　④調査地点撤去状況（西より）

⑤調査地点は，④調査地点の３ｍほど南に位置する．樹木の周囲1.8×2.0ｍの範囲を，深さ0.5ｍまで掘削し，重機で引き倒し，ワイヤーで吊って撤去した．埋土内でおさまった．

⑥調査地点は，研究実験棟の北側の棟の東側である．樹木の周囲2.0×2.0ｍの範囲を0.1ｍほどすき取り，重機で引き倒し，ワイヤーで吊って撤去した．埋土内でおさまった．

写真52　⑥調査地点作業風景（北より）

写真53　⑥調査地点撤去状況（北より）

⑦調査地点は，⑥調査地点の南，南側の実験棟の東側である．⑥調査地点と同様に，樹木の周囲2.0×2.0mの範囲を0.1mほどすき取り，重機で引き倒し，ワイヤーで吊って撤去した．埋土内でおさまった．

本立会での，遺構・遺物の検出はない．

9．（黒髪南）理学部圃場樹木切り株撤去工事（1625）

＜調査期間＞

2017年２月７・８日

＜調査面積＞

56.0㎡（29.03㎡）

＜調査員＞

吉留　広．

＜調査概要・結果＞

理学部圃場内で障害となっていたエノキの木・センダンの木・雑木２本の切株撤去，並びに樹木撤去の際に作業の妨げとなるフェンス基礎４基の撤去に伴う立会調査である．

エノキの地点では，水生動物飼育舎の南東隅からフェンスに沿って北東側に33.5m離れた所を中心に，北東－南西軸を長軸に6.0×3.8mの楕円形の範囲を，地表下0.8～1.2mまで掘削した．全体的にガラス等を含む現代埋土であったが，北側に一部褐色砂岩層を検出した．精査の結果，褐色硬質砂層にいびつな形で黒褐色土の範囲を検出したが，これは遺構ではなく樹痕であると判断した．

エノキの西側にあった雑木の地点では，1.0×1.0mの範囲を地表下0.1mまで掘削したが，現代埋土内におさまった．エノキの地点の南西側にフェンスと一体化していた雑木は，フェンス撤去時に一緒に抜けてしまったと報告を受けた．

エノキの地点は，地表下1.2mまでは現代埋土に削平されている状況を見ると，遺物包含層への影響はなかったと判断した．

センダンの地点は，水生動物飼育舎の南東隅からフェンスに沿って北東側に26.8mの位置し，2.8×3.0mの範囲を半円状に，地表下0.9mまで掘削した．地山までは到達せず，現代埋土内におさまった．フェンス基礎４基はそのまま抜き取り，掘削は行わなかった．遺物包含層には影響はなかった．

全ての地点において遺構・遺物の検出はなかった．

写真54　No.①作業風景（南東より）

写真55　No.①掘削状況（南東より）

写真56　No.①土層断面（南より）

写真57　No.④掘削状況（南東より）

10.（黒髪南）コンプレッサー保管庫設置に伴う立会調査（1634）

＜調査期間＞

2017年３月14日

＜調査面積＞

12.28㎡（10.1㎡）

＜調査員＞

吉留　広.

＜調査概要・結果＞

共用棟黒髪３の南東隅にコンプレッサーと保管庫を設置する工事に伴う立会調査である.

南側ではコンプレッサーを支える基礎部分，東側では保管庫を支える基礎部分の２箇所を掘削した.

コンプレッサーの設置箇所では，1.0×1.0mの範囲を地表下0.10mまで掘削した．保管庫の設置箇所では4.65×2.15mの範囲を地表下0.15mまで掘削した．２箇所とも礫や山砂を多く含む現代埋土内におさまり，遺物包含層への影響はなかった.遺構・遺物の検出はなかった.

写真58　作業風景（南東より）

写真59　南側箇所掘削状況（南より）

写真60　東側箇所掘削状況（北東より）

Ⅱ－３　本荘北地区　（図５参照）

１．（本荘北）臨床研究棟新営電気設備工事に伴う立会調査（1502）

＜調査期間＞

2016年11月４日

＜調査面積＞

12.54㎡

＜調査員＞

大坪志子・吉留　広.

＜調査概要・結果＞

本工事は，昨年度より継続して実施している，臨床研究棟新営にかかわる電気工事である．建設中の研究棟の北東に位置する階段の南部から，東に電気配線を行い，その先に外灯を設置するものである．

階段側から，幅0.6m，深さ0.6m 前後で掘削をおこなった．配線部では，5箇所で鋼管が検出されたが，これらの上・下を通して配線をおこなうように掘削した．いずれも，埋土内である．外灯部の掘削では，西側に水道管（電気ケーブルか？）が検出され，東側ではヒューム管が検出されたため，その間で直径0.6mの基礎用スパイラルが埋設できる範囲を確保して掘削をおこなった．地表下0.45mまでは埋土であり，その下は厚さ0.25～0.3mの砂層，その下は0.25～0.3mの砂質土層，その下は砂層となっていた．いずれも河川堆積物と考えられる．土師器片と磁器片が数点含まれていた．底部で，やや東に振れる南北方向に，砂と砂質土層の境界線が確認できた．溝の可能性が考えられる．掘削はこの上面までであったので，立会を終了した．

写真61　配線西半掘削状況（南西より）

写真62　配線東半掘削状況（南西より）

写真63　外灯基礎部溝状遺構？検出状況（南西より）

２．（本荘北）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1618）

＜調査期間＞

2017年１月23日

＜調査面積＞

19.50㎡（2.25㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本荘北地区の西門脇に植栽されていた２本の大木の樹根（①②調査地点）と，第一立体駐車場の南側に位置する敷地境界の壁沿いの並木のうち，１本（③調査地点）の除根作業をおこなった．

①②調査地点ともに，樹根の周囲を掘削しながら，根を切断していき，最後は重機で引き倒して撤去した．植栽されている緑地帯は，周囲のアスファルト面より0.2mほど高く，ともに0.2m～0.3mの掘削で，埋土内におさまった．遺構・遺物の検出はない．

③調査地点も，重機で引っ張ると簡単に倒れ，そのまま撤去した．埋土内であり遺構・遺物の検出はない．

図５　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）

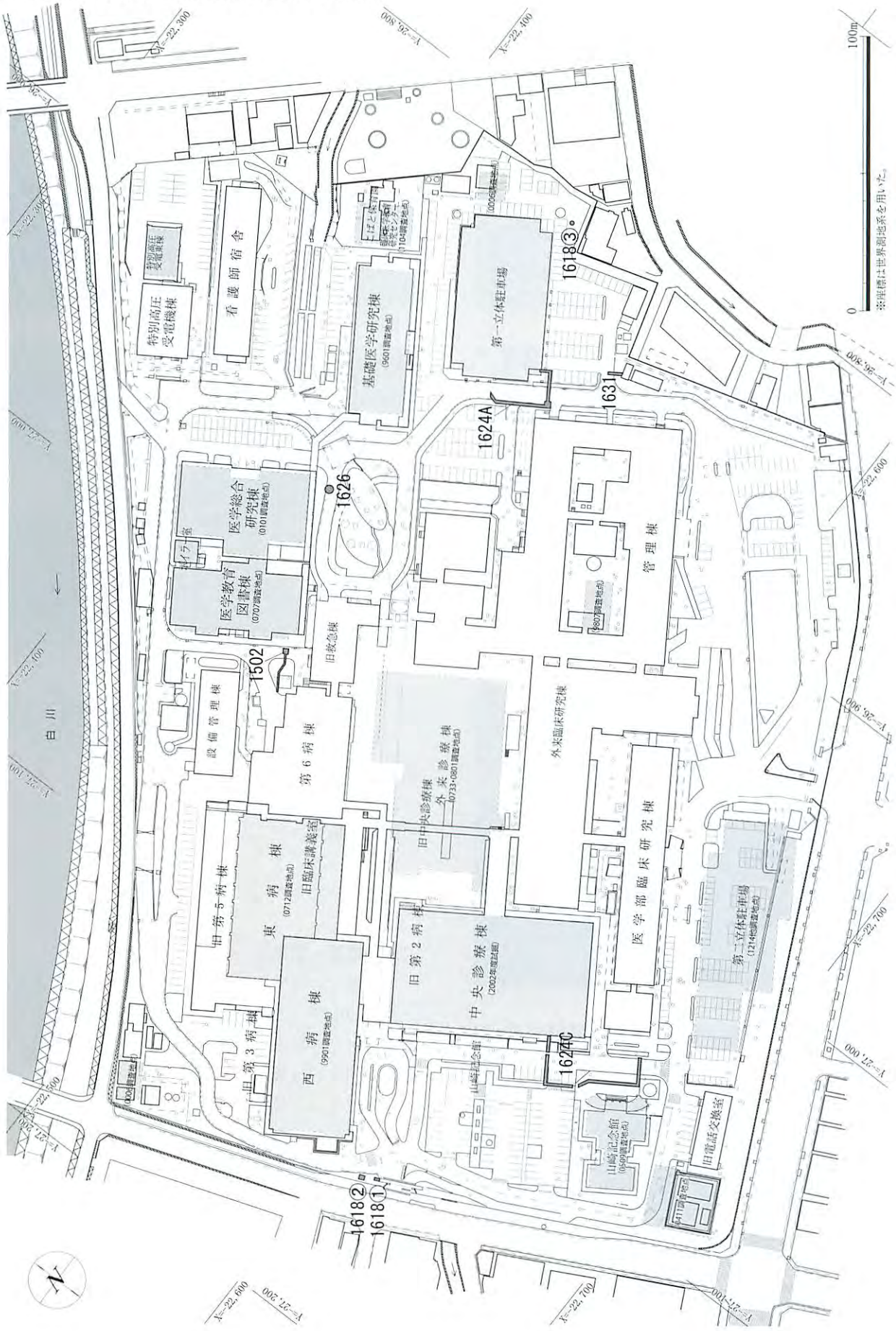


写真64　①調査地点作業風景（南東より）

写真65　①調査地点作業風景（南東より）

写真66　①調査地点撤去状況（南東より）

写真67　②調査地点撤去状況（西より）

写真68　③調査地点作業風景（西より）

写真69　③調査地点撤去状況（西より）

3．（医病）基幹・環境整備（旧管理棟等支障配線替）工事に伴う立会調査（1624）

＜調査期間＞

2017年２月６日～16日

＜調査面積＞

220.5㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

本工事は，医学部附属病院にある，旧管理棟を撤去する計画の中で，支障となる電線の配線替をするものである．第一立体駐車場付近をＡ地点，中央診療棟と山崎記念館の間をＣ地点（Ｂ地点は工事中止）とした．

Ａ地点では，最初にハンドホール設置個所から掘削した．2.4×2.1ｍの範囲を地表下0.7ｍまで掘削したところで，地山の土に似た土層を検出した．地山よりは砂質に近く，小さな小石などの混入物もあり，水路中や洪水等による地山土の二次堆積と判断した．撹乱等が東側のみであったため，慎重に0.1～0.2ｍ掘削した．すると，古代の遺物包含層を検出した．撹乱がなく遺存状態が良いため，遺物包含層を除去するにもある程度の時間を要し，

また遺構面に遺構が存在する可能性も高い状況であった．工事担当者と業者との協議でハンドホールを設置しない方針をとった．

この枡部分から，東側へ伸ばし立体駐車場とつなぐルート，および北へ伸ばし既設のハンドホールにつなぐルートは，ともに地表下0.7mの掘削で，すべて埋土内におさまった．遺物包含層や遺物の検出はない．

C地点では，中央診療棟の地下ピットから西にある既設枡に接続し，さらに西へ伸ばして南へ曲がり，山崎記念館の南端付近で東に曲がり，東側駐輪場にある枡へつなぐ工事をおこなった．

地下ピットとの接続部は，既設管の工事時に作ったと考えられるコンクリート塊と地下ピットとの連結法による影響で，予定より深く1.43m掘削した．ここには既設管も複数通っており，既設管の上を通すことにしたため，埋蔵文化財への影響は全くない．

このほかの箇所についても，3か所において試掘を行い，地表下0.7mの掘削では遺物包含層や遺物の検出はないことを確認した．

写真70　A地点L字東西横断部東半作業風景（西より）

写真71　A地点枡部分包含層検出状況（南より）

写真72　A地点南北部（南半）掘削状況（北より）

写真73　C地点試掘②作業風景（南より）

写真74　C地点枡部分東壁（西より）

写真75　C地点試掘③掘削状況（南より）

4．（医病）枯木樹木伐根業務に伴う立会調査（1626）

＜調査期間＞

2017年２月10日

＜調査面積＞

7.10㎡

＜調査員＞

吉留　広．

＜調査概要・結果＞

平成25年度に，医学総合研究棟の南側に移植した樹木が，立ち枯れをおこした．この樹木を撤去する業務に伴い，立会調査をおこなった．

医学総合研究棟の南東隅から西側に5.0m，南側に7.9mの位置を中心に，直径3.0mのインターロッキングブロックと，その中に設置してあるサークルベンチを外し，樹木の周囲を地表下1.4mまで掘削した．前回の移植の際に掘削した範囲内で樹木を伐根できたため，埋蔵文化財への影響はなかった．遺構・遺物の検出はなかった．

写真76　作業風景（南西より）

写真77　掘削状況（東より）

5．（医病）木工室他給水管盛替工事（1631）

＜調査期間＞

2017年３月２日

＜調査面積＞

7.00㎡（5.1㎡）

＜調査員＞

吉留　広．

＜調査概要・結果＞

木工室北側の道路に，東西軸で埋設されている給水管から，木工室に盛替する工事に伴う立会調査である．掘削範囲の環境は，路面よりも道路際の縁石で0.10m高くなり，縁石から木工室にかけて0.10mほど徐々に高くなっている．木工室の北側を，南北軸で道路から縁石までの2.00m，縁石から木工室までの3.10mを幅1.00mの範囲で路面からの深さ0.80～0.30mで掘削した．

路面部分を北側から掘削すると，路面からの深さ0.50mで一部遺物包含層と思われる土層を検出した．この高さで精査したところ，北端から0.80mまでは山砂，0.80～0.90mまでが遺物包含層，0.90～2.00mまでは電線管の埋土となっていた．山砂を除去すると路面からの深さ0.60～0.80mのところで，北側から0.20mの位置に給水管，0.60mの位置にガス管を検出した．山砂の掘方の南側壁に一部残っていた遺物包含層を確認すると，路面からの深さ0.40～0.55mまではにぶい黄褐色土，0.55～0.65mまでは灰黄褐色土，0.65～0.80mまでは黒褐色土となっていた．盛替工事は電線管の掘方を利用し，電線管の下を通す予定であったため，一部残っていた遺物包含層を一枚ずつ掘削していったが，遺構は検出されなかった．ここで電線管の掘方に盛替工事のできるスペースがあるか確認したところ，電線管は数十本が束になって埋設されていた．そのため管と掘方には隙間がなく，また管下には遺物包含層が残っている状態であったことから，管上に配管する方法に変更した．縁石から木工室にかけては撹乱の影響を受けておらず，遺物包含層は非常に保存状態が良かった．縁石から木工室までの土層の状況は，アスファルトの高さまでが砕石となっており，路面から0.10mまでが現代埋土，0.10～0.20mまでが昭和28年の白川洪水層，0.20～0.40mまでは第２次世界大戦時期のものと思われる焼土層となっていた．電線管から木工室にかけて深さが0.50mから0.30mになるように掘削した．

遺構は検出されなかったが，黒褐色土層より土師器片を２点検出した．

写真78　作業風景（北西より）

写真79　掘削状況（北より）

写真80　土層断面（北東より）

Ⅱ－4　本荘中地区　（図6参照）

1．（本荘中・南）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1619）

＜調査期間＞

2017年1月23～24日

＜調査面積＞

8.05㎡（0.35㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本工事は，平成27年に九州に上陸した台風第15号により倒木被害を受けた樹木の撤去作業である.

本荘中地区では，発生医学研究所の南側に位置する緑地帯に植栽されていた樹木1本（①調査地点），生命資源研究・支援センター，動物資源開発研究所施設本館の西側の緑地帯に植栽されていた1本（②調査地点）の撤去をおこなった.

①調査地点では，樹根はほぼ露出した状態で倒れていた．これを重機で起こして撤去し，掘削を伴わなかった.

写真81　①調査地点作業風景（南より）

写真82　①調査地点樹根撤去状況（西より）

②調査地点では，周囲を0.1m程度すき取ったのちに，倒れた樹根を起こして撤去した．

ともに，遺構・遺物は検出されなかった．

写真83　②調査地点作業風景（南より）

写真84　②調査地点樹根撤去状況（西より）

2．（本荘中）本荘中５災害復旧工事に伴う立会調査（1633）

＜調査期間＞

2017年３月14日

＜調査面積＞

271.0㎡（0.5㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

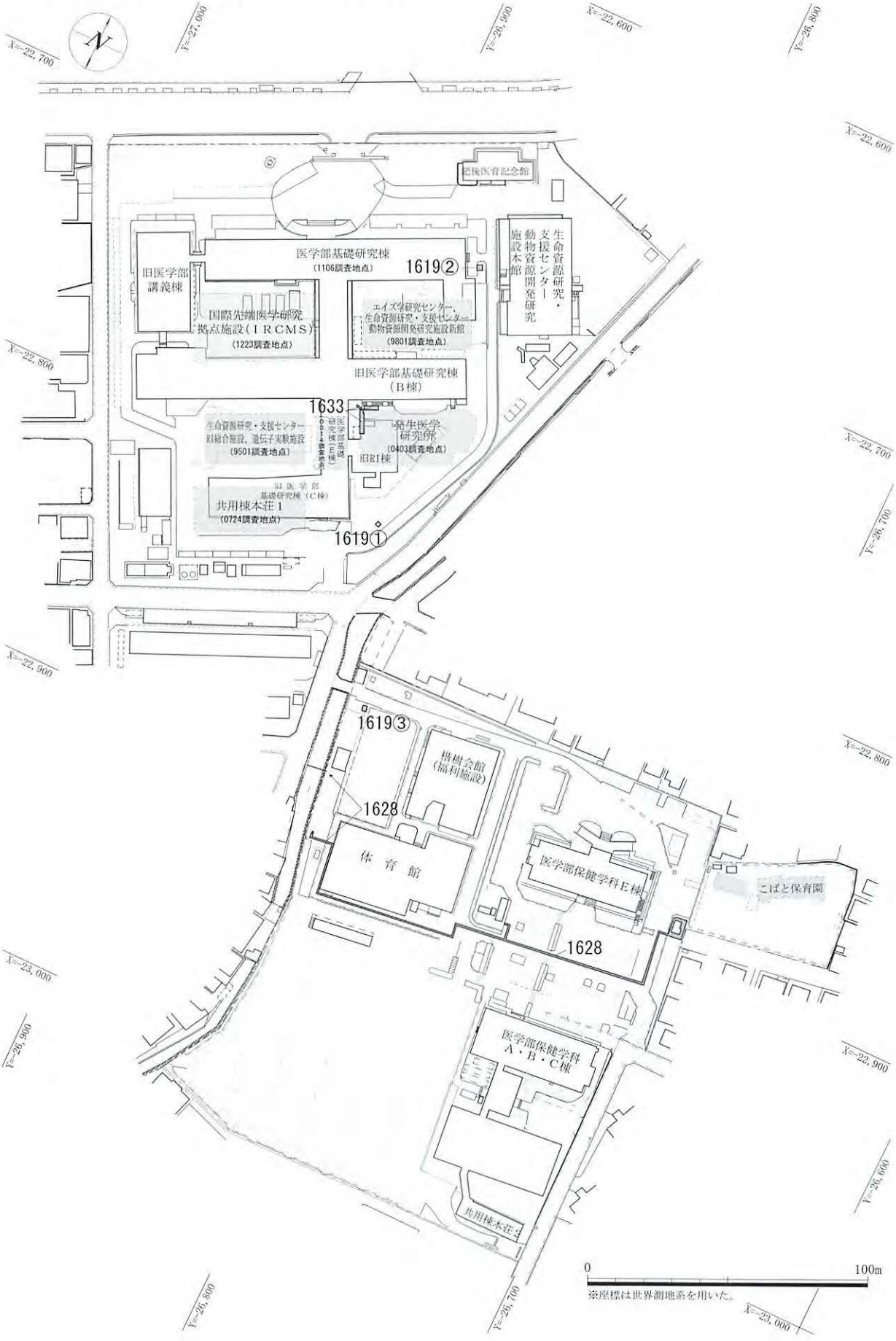
本工事は，熊本地震により，発生医学研究センター周囲の破損・変形した配管や枡，表層を補修する工事である．当初は，建物周囲の枡17個についても修繕が必要とされたが，精査の結果，建物北西の配管と側溝のみ，掘削を伴う工事となった．

枡と枡の間，約１m，幅0.5mを地表下0.6mまで掘削した．塩化ビニールの管は破損しておらず，下方にたわんでいる状態であった．このため，管の下に砂を詰め変形を修正し埋め戻すことにした．この深さは既往調査では埋土内であり，また本管工事の掘方内におさまった．側溝はこれよりも浅い掘削であるため，慎重に作業を進めるように指導し，立ち合いを終えた．

写真85　作業風景（南より）

写真86　掘削状況（南東より）

図６　本荘中・南地区における調査地点配置図（1/2000）



Ⅱ－5　本荘南地区　（図６参照）

1．（本荘中・南）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1619）

＜調査期間＞

2017年１月23～24日

＜調査面積＞

8.05㎡（3.2㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜査概要・結果＞

本工事は，平成27年の台風第15号による倒木被害をうけた樹木撤去工事である．本荘南地区では，北西の敷地入口を入って右にある，フェンス沿いの１本（③調査地点）を撤去した.

重機で周囲を浅くすき取ったのちに，樹根を引き抜いた．0.5m程度の窪みができた．埋土内であり，遺構・遺物の検出はない.

写真87　③調査地点作業風景（北より）

写真88　調査地点樹根撤去状況（北より）

2．（本荘南）本荘南１等給水設備改修工事に伴う立会調査（1628）

＜調査期間＞

2015年２月15～３月１日

＜調査面積＞

1015.8㎡

＜調査員＞

大坪志子・吉留　広.

＜調査概要・結果＞

給水管を新しく敷設する工事である．敷地西側にある受水槽から接続・掘削し，敷地東側の既設管に接続する工事である.

全体的に幅0.6m，地表下0.5mの掘削で，部分的に0.6mまで掘削した箇所がある．この深さまでは砕石や埋土であった．部分的には，地山の土に似た褐色の砂質土層が検出されたが，この土層も洪水などの二次的な要因による堆積層とみられ，今回の掘削では、遺物包含層や地山には達しなかった.

敷地の東側では，配管とメーターを設置する工事も含み，既設管が深く，地表下1.5m程度の掘削をおこなった．ここでは地表下0.6～1.3mまでが黄色～褐色の砂質土であった．これらも，二次的な堆積層と考えられる．部分的に，この土層の上に，水田の床土のような灰色の粘土質層が堆積している.

敷地西側のポンプ室北側に位置する，受水槽北側の掘削（0.5×0.25m）では，深さ0.33mまですべて砕石であった.

本工事による掘削で，遺物包含層や遺構面，遺物の検出はない.

写真89　体育館東側ポンプ室横作業風景（北西より）

写真90　体育館東側ポンプ室横掘削状況（西より）

写真91　体育館東側ポンプ室横掘削状況（南より）

写真92　体育館東側地点掘削状況（北より）

写真93　体育館南側地点掘削状況（北より）

写真94　保健学科Ｅ棟南側地点（東半）掘削状況（東より）

写真95　東部メーター設置箇所掘削状況（南より）

Ⅱ－6　大江地区（薬学部）（図７参照）

1．（大江）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1615）

＜調査期間＞

2017年１月18日

＜調査面積＞

96.25㎡（3㎡）

＜調査員＞

吉留　広．

＜調査概要・結果＞

本調査は，平成27年台風第15号の影響で，倒木の被害にあった樹木の除根業務に伴う立会調査である．本地点は共同実験棟と民家の間に位置する．

共同実験棟の北西隅から東側に9.00m，北側に7.00mの位置を，2.00×1.50mの範囲で地表下0.15mまで掘削した．現代埋土内におさまったため，遺物包含層への影響はなかった．

遺構・遺物の検出はなかった．

写真96　作業風景（北西より）

写真97　掘削状況（南西より）

2．（大江南）薬草園給水管修理工事に伴う立会調査（1629）

＜調査期間＞

2017年２月28日

＜調査面積＞

2.0㎡

＜調査員＞

吉留　広．

＜調査概要・結果＞

本調査は，本学白山宿舎３号の南側にある十字路の，東西方向の通路南側に敷設してある給水管に，漏水が疑われ，それを確認・修理する工事に伴う立会調査である．

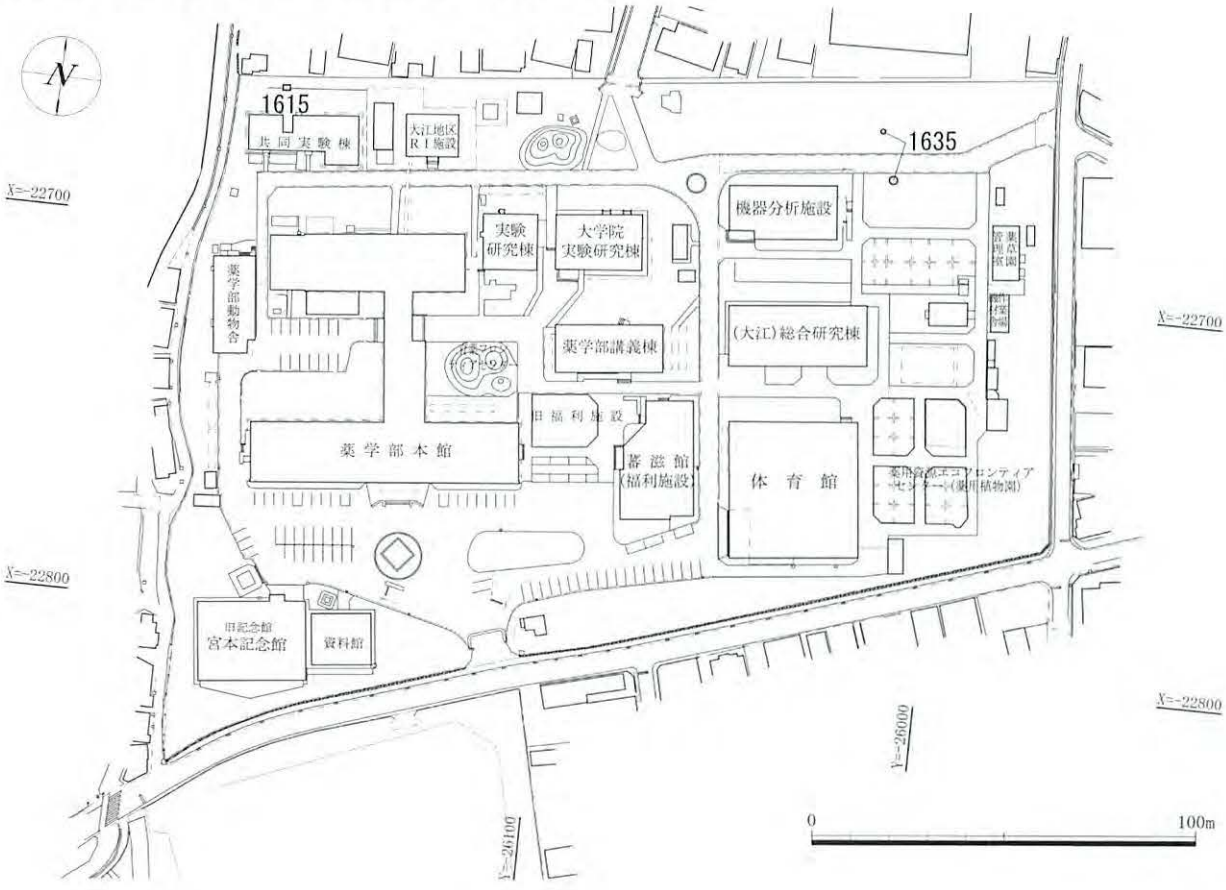
漏水箇所は十字路の交差点から西側に6.40mの位置と推定された．この位置を幅1.00×1.00mの範囲で地表下0.55mまで掘削したところ，北側で幅0.10mの黒色の地山を検出した．地山は掘削せずに給水管の掘方のみを掘削した．給水管は地表下0.77m程で露出させたが，掘削範囲内で漏水箇所は確認されなかった．

そこで掘削中に水が流れ出てきた西側への拡張が必要となった．そのため熊本市教育委員会文化振興課に，西

写真98　作業風景（南東より）

写真99　掘削状況（東より）

図7　大江地区（薬学部）における調査地点配置図（1/2000）



側へ1.00×1.00mの範囲を拡張する許可を得て掘削をおこなった．掘削範囲は合わせて2.00×1.00mとなった．拡張部を掘削すると，東端から1.30mの位置で漏水箇所を確認した．給水管の直下は黒色土の地山となっていた．工事には若干のスペースが必要であったため地山を掘削する必要があった．そこで掘方埋土を除去し地山で遺構検出を行ったが，遺構は検出されなかった．地山を0.03m掘削し，最終的な深さは地表下0.80mとなった．

遺物の検出はなかった．

写真100　土層断面（南より）

3．（大江北）薬用植物園北側樹木移植業務に伴う立会調査（1635）

＜調査期間＞

2017年3月22日

＜調査面積＞

15.25㎡（5.13㎡）

＜調査員＞

吉留　広．

＜調査概要・結果＞

本調査は，機械分析施設の東側にあるアンズの木を，北側の道を挟んで反対側の薬用植物園に移植する業務に伴う立会調査である．

まず移植先の掘削をおこなった．東門から西に45.0mの位置を直径1.3mの範囲で，地表下0.5mまで掘削した．客土内におさまり，遺構・遺物の検出はなかった．

次に移植元の掘削を行った．東門から南西に45mの位置を直径2.2mの範囲で，地表下0.8mまで掘削した．掘削は礫・ガラス・レンガを含む撹乱埋土内におさまった．遺構・遺物の検出はなかった．

写真101　調査区近景（北より）

写真102　移植先掘削状況（西より）

写真103　移植元作業状況（東より）

写真104　移植元掘削状況（東より）

Ⅱ－7　京町地区　（図８参照）

1．（京町）教育学部附属小学校仮設校舎取設工事に伴う立会調査（1610）

＜調査期間＞

2016年12月16・27日，2017年２月１日

＜調査面積＞

416.1㎡（14.36㎡）

＜調査員＞

大坪志子・吉留　広．

＜調査概要・結果＞

本工事は，本学教育学部附属小学校校舎Ａ棟北側に仮設校舎を建設する工事，および仮設校舎の排水管，ガス管を設置する工事である．

仮設校舎の基礎部分の掘削については，試掘地点を５箇所設定した．

附属小学校校舎Ａ棟北側に位置する，仮設校舎１では，北西部（図中「仮試掘①」）と西部（同②）試掘地点の２箇所の試掘をおこなった．①試掘地点は旧花壇で，花壇の縁石上面を設計 GL とした．ここでは，1.8×0.8m の範囲を0.25m掘削した．埋土内であった．

写真105　①試掘地点作業風景（西より）

写真106　①トレンチ掘削状況（南より）

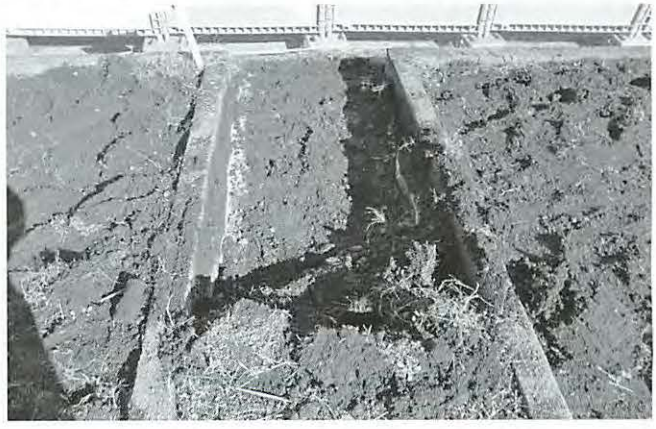
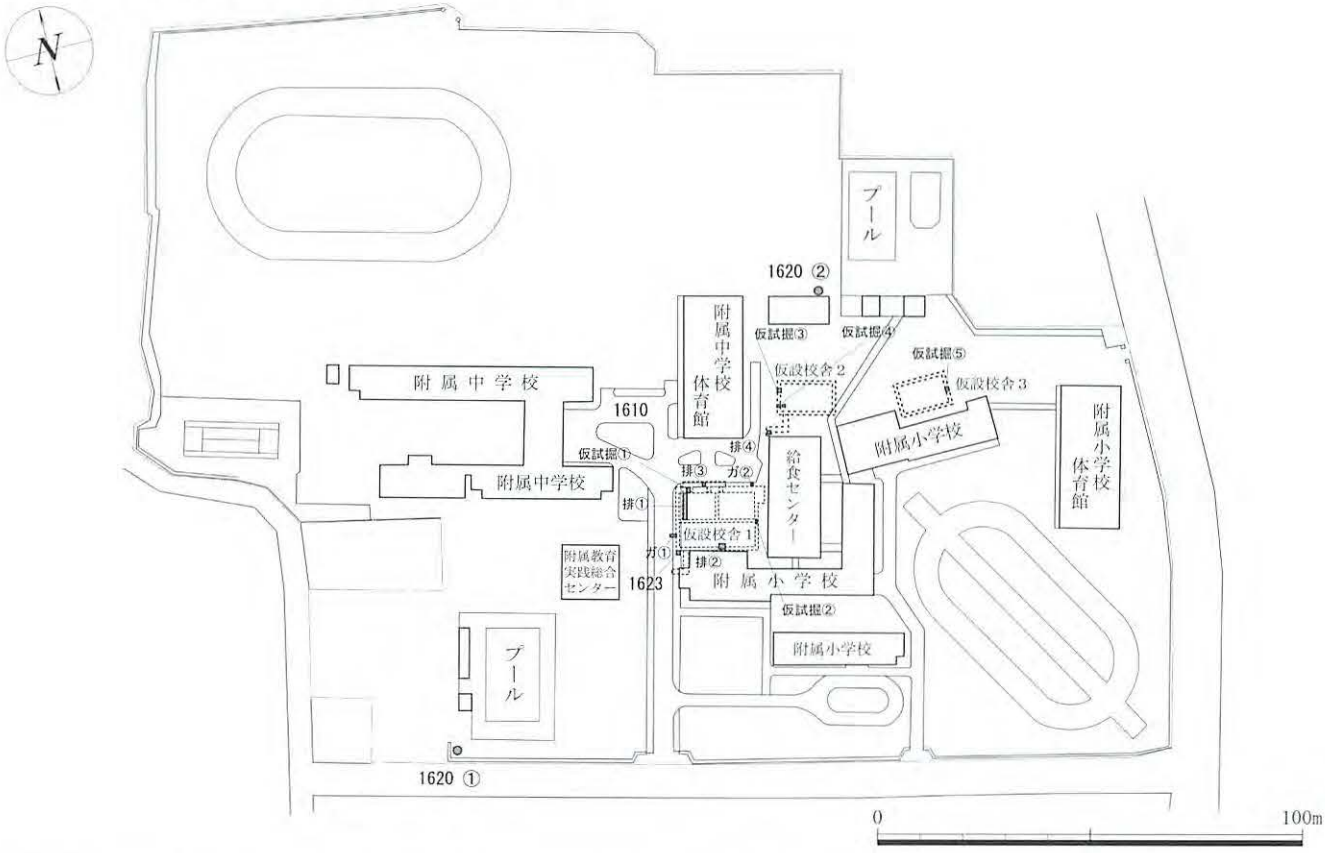


図８　京町地区における調査地点配置図（1/2000）



この地点で設定したGLをもとに，②試掘地点を掘削したが，この地点では0.1m程度の掘削であった．埋土内である．

附属小学校多目的ホール北側に位置する，仮設校舎２の東側を③試掘地点とした．1.0×0.9mの範囲を，地表下0.25mまで掘削した．地山（遺構面）の土が混入した土層を確認した．周辺は一度，地山まで掘削し，整地したようである．これ以上深く掘削しないように指導した．

仮設校舎２の建設予定地内にある遊具の撤去工事（④試掘地点）は，木製のポールに布紐をかけてを引き抜いた．掘削を伴わずに完了した．

写真107　③試掘地点作業風景（南より）

写真108　③トレンチ掘削状況（南より）

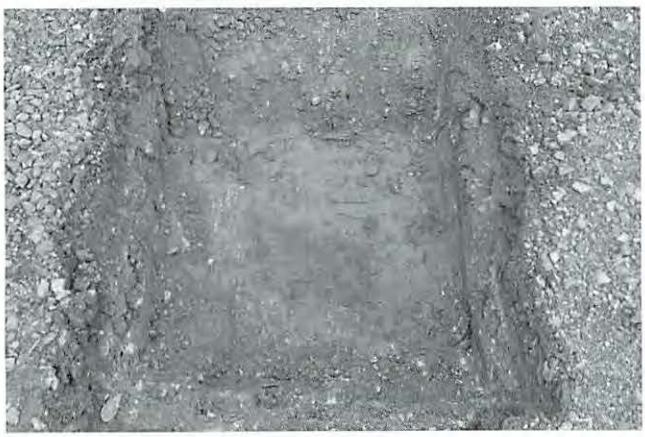
写真109　④試掘地点遊具２撤去作業風景（南より）

写真110　④試掘地点遊具２撤去状況（南より）

附属小学校校舎Ｂ棟北側に位置する仮設校舎３では，東側を⑤試掘地点として，0.9×0.9mの範囲を0.3m掘削した．敷いている砂利と地山の混土層が検出され，その下は地山である．また，西側も同様の層を検出した．既往の調査でも，周辺は地山（遺構面）の検出レベルが浅いことが判明している．このため，砂利と地山土の混土層までの基礎掘削の深さは0.2mとすることを工事担当者および施工者で確認した．本地点での遺構・遺物の検出はない．

写真111　⑤試掘地点作業風景（南より）

写真112　⑤試掘地点掘削状況（東より）



機械設備工事（ガス管や排水管）は，当初別途93条1項の提出をしていたが，本件では合わせて調査番号を付して施工した．

教育学部附属小学校校舎Ａ棟の北側に建設する，仮設校舎１の排水管を新設する工事である．最初に排水の，最も掘削深度が深い西側と南側中央所の２箇所の掘削に立会った．その後，追加部分とガス管設置箇所について，立会調査を実施した．

西側の地点は体育館の南西隅より南側に13.55m，東側に2.00m離れた地点を，10.50×0.60mの範囲で地表下0.70～0.75mまで掘削した（図中「排①」）．掘削部分はレンガ片・砕石を含む撹乱埋土内におさまったが，北側から1.2mの位置では，地表下0.7mで暗褐色粘質土の地山が一部検出された．遺構は検出されなかったが，撹乱埋土内から弥生土器を数点検出した．

南側中央の地点は，附属小学校の北西隅から東に7.55m，北側に3.0mの地点を0.6×1.5mの範囲で，地表下0.5mまで掘削した（同②）．すべて現代埋土内におさまっており遺物包含層への影響はなかった．

本地点での遺物・遺構の検出はなかった．

写真113　西側地点（建物内）作業風景（南東より）

写真114　西側地点（建物内）掘削状況（北より）

写真115　西側地点（建物外）掘削状況（北より）

写真116　南側中央地点掘削状況（西より）

仮設校舎１の北側の排水管工事では（同③），東西管路の西寄地点を1.0×0.7mの範囲で0.5mの深さを掘削した．盛土をおこなった地点であるため，アスファルト面からすると地表下0.25m程度の掘削である．埋土内で，埋蔵文化財には影響はないと判断した．

写真117　仮設校舎１北側排水管掘削状況（北より）

仮設校舎２南西部の排水管工事では（同④），仮設校舎２と多目的ホールをつなぐ管路で，既設建物である多目的ホールの掘方を避けた地点を掘削した．給食室の北西隅から北に1.9mの地点を1.0×0.7m，深さ0.5mを掘削した．この結果，遺物包含層と地山土の混土層を検出した．北側の仮設校舎２付近の基礎工事における試掘においても同様の混土層が検出されており，一帯は一度，地山まで削平が及んでいると考えられるが，その深さや遺構の残り具合の詳細は不明である．本地点においては，これ以上の掘削をさけ，慎重に施工することを確認した．

写真118　仮設校舎２南西部排水管掘削状況（南より）

配管⑦仮設校舎１南西部では（図中「ガ①」），仮設校舎の西壁沿いに，南西隅から3.5m付近を掘削し，既設のガス管を発見した．1.0×0.6m，地表下0.9mまで掘削したが，埋土内であった．ここから分岐を行い，地上露出して配管するため，これ以上の配管のための掘削は必要ないことを確認した．

写真119　仮設校舎１南西部ガス管検出状況（南より）

配管⑦仮設校舎１北西部でも，既設ガス管を探すための掘削をおこなった（同②）．0.6×0.85m，深さ0.4mの範囲を掘削した．管の埋設土を除くと一部で遺物包含層が検出された．東側に隣接する旧給食センター付近では，非常に浅いレベルで遺物包含層や遺構面（地山）が検出されており，この遺物包含層はプライマリーである可能性がある．そのため，これ以上の掘削を行わず，分岐をするよう指導して，立会調査を終了した．

写真120　仮設校舎１北西部ガス管検出作業風景（西より）

写真121　仮設校舎１北西部ガス管検出状況（北より）

２．（京町）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1620）

＜調査期間＞

2017年１月26日

＜調査面積＞

10.25㎡（2.14㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本学教育学部附属小・中学校が所在する京町地区の２箇所で，平成27年の台風第15号による被害樹木の撤去をおこなった.

中学校のプールの南西隅に位置する地点（①調査地点）では，周囲を10cmほどすき取ったのちに，倒れた木の切り株を重機で起こした．これだけで，撤去が可能であった．掘削は行っておらず，遺構・遺物に検出はない.

中学校体育館の東側にある，ボイラー室北側（②調査地点）では，切り株の周囲を掘削して樹根を切断，解体しながら撤去をおこなった．掘削は0.2m程度で，遺構・遺物の検出はない.

写真122　①調査地点樹根撤去作業（東より）

写真123　①調査地点撤去状況（東より）

写真124　②調査地点作業風景（東より）

写真125　②調査地点撤去状況（西より）

3．（京町）教育学部附属小学校仮設校舎取設に伴う支障配管替え工事に伴う立会調査（1623）

＜調査期間＞

2017年２月１日

＜調査面積＞

62.3㎡（0.8㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本工事は，仮設校舎に給水管をつなぐ工事である．近辺を通る既設の給水管を探し，そこから新たに給水管を分岐するための工事である．

当初，仮設校舎西側の道路付近を通っていると想定されていた既設の給水管が，仮設校舎の下を通っていることが判明し，仮設校舎１の南西隅を1.0×0.8mの範囲を掘削した．地表下約0.7mで給水管を検出し，分岐作業を考慮して地表下約1.0mまで掘削した．埋土内であり，遺構・遺物の検出はない．

写真126　作業風景（南西より）

写真127　水道管検出状況（南より）

Ⅱ－８　新南部地区　（図９参照）

1．（新南部）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1616）

＜調査期間＞

2017年１月19日

＜調査面積＞

32.5㎡（29.12㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本学教育学部附属新南部農場敷地内の樹木で，平成27年の台風第15号によって被害を受けた樹木の除根作業をおこなった．

敷地の北西部，平地と畑地との境界に沿って植栽されていた４本が対象である．樹木①③④は，切株が小さく，周囲を浅く掘削して重機のバケットで引き倒し，そのまま引き抜いた．樹木②は，切り株が大きく，根も大きく，広く周囲に張っていたため，周囲を掘削しながら根を切断して引き抜いた．

掘削は0.2～0.7mの深さで，近世～近代耕作土内であった．樹木②の地点では，除根後の窪みで古代の遺物包含層と考えられる黒色の土層を確認した．今後，0.7m以下の掘削には，注意が必要であることが判明した．

遺構・遺物の検出はない．

写真128　樹木③作業風景（東より）

図９　新南部地区における調査地点配置図（1/2000）

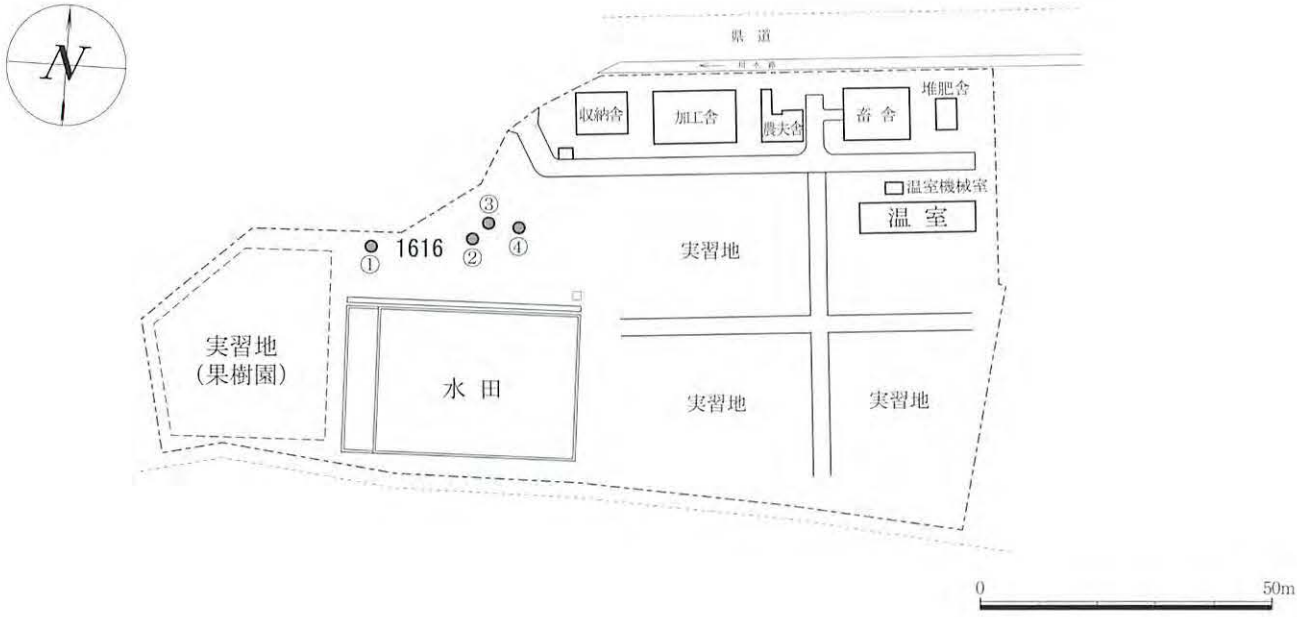


写真129　樹木③作業風景（南より）

写真131　樹木①樹根撤去状況（南より）

写真130　樹木②樹根撤去状況（南西より）

Ⅱ－9　宇留毛地区　（図10参照）

1．（宇留毛）国際交流会館Ａ・Ｂ棟北方中庭陥没補修工事に伴う立会調査（1602）

＜調査期間＞

2016年９月13日

＜調査面積＞

50㎡（44.725㎡）

＜調査員＞

山野ケン陽次郎・大坪志子.

＜調査概要・結果＞

宇留毛地区に所在する国際交流会館Ａ・Ｂ棟に囲まれた中庭東側の地表面に生じた陥没の補修に係る工事の立会を実施した.

2016年４月に発生した熊本地震の後，国際交流会館の中庭地表面に３カ所の陥没が確認された．本地点には現在では使用されていない浄化槽が埋設されたままの状態であり，これが陥没の要因と想定された．まずは浄化槽西側の端を検出するために重機による掘削をおこなったところ，Ａ棟の建物端から約2.5m北西方向，地表下0.35m程で浄化槽西側縁を検出できた．さらに北西に掘削を延長したところ，浄化槽の天井面の一部が破壊され，穴が開いていることが確認できた．穴は幅1.2m程で北西方向に伸びており，その中には山砂や砂利が充填され，一部には砂を削りながら水が流れたような痕跡も確認できた．このことから，陥没の原因は浄化槽内部の埋め戻しの際，充填した土の転圧が十分でなかったことに起因する土砂の流出によると考えられた.

本状況を加味し，施設管理課担当者と工事の施工方法を打ち合わせたところ，浄化槽天井の穴の周囲30cm程を壊し，コンクリートで固めて蓋をすることになった．そこで，浄化槽にあけられた穴の位置を確認するために，南北11.9m，東西2.5mの範囲を掘削した．浄化槽の穴は北端で途切れたが，北西側にも別の穴が並行して設けられていることが判明したため，北端で北西方向に5.5m×2.5mの範囲を拡張掘削し，穴の範囲を明らかにした．陥没箇所と浄化槽の天井穴の位置は対応しており，穴の縁も検出できたため，これ以上の掘削の必要はなく，立会を終了した．掘削は全て現代埋土内におさまり，埋蔵文化財への影響や遺物・遺構の検出もなかった.

写真132　調査地点全景（東より）

写真133　浄化槽の天井穴検出レベル（南西より）

写真134　掘削作業風景（南西より）

写真135　掘削状況（南西より）

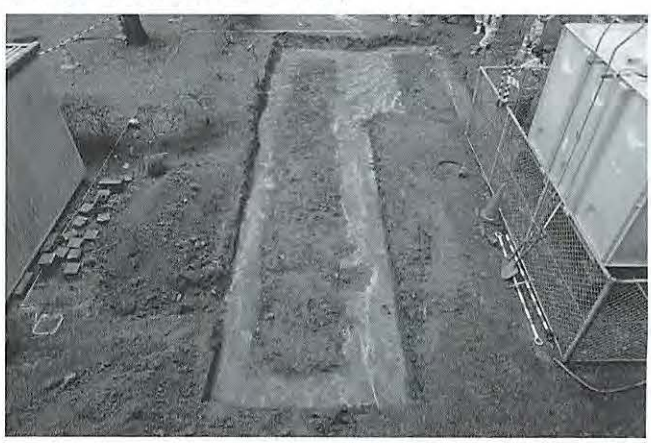
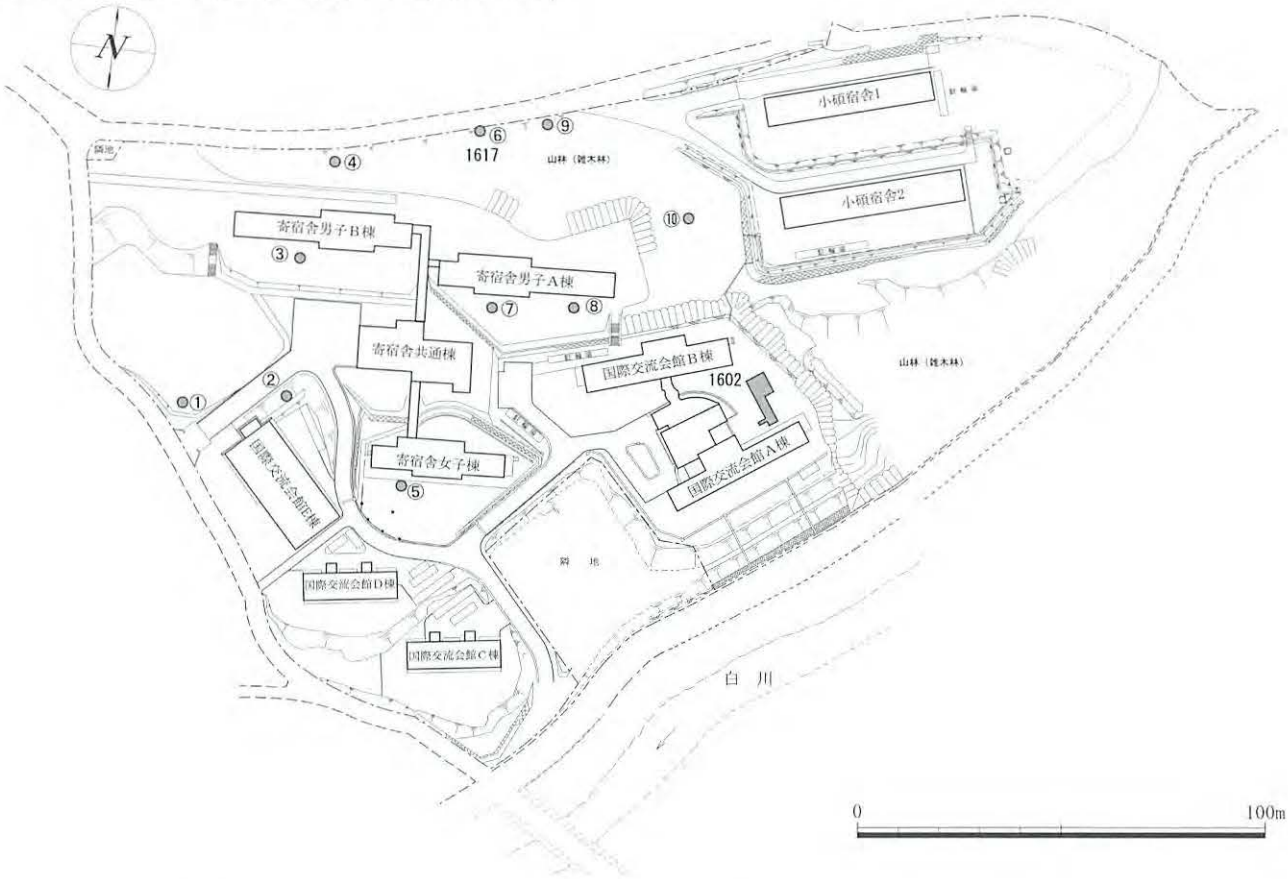


図10　宇留毛地区における調査地点配置図（1/2000）



2.（宇留毛）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1617）

＜調査期間＞

2017年１月23～27日

＜調査面積＞

106.5m（58.05㎡）

＜調査員＞

大坪志子・吉留　広.

＜調査概要・結果＞

平成27年台風第15号の影響で，被害を受けた樹木10本の除根業務に伴う立会調査である．樹木には№①～⑩と番号を付し順に説明する．

№①サクラは，学生寄宿舎・国際交流会館の西側にある門の北側に位置する．2.5×2.5mの範囲を，地表下0.3mまで掘削したが，すべて現代埋土内におさまった．一部の根の周辺に黒褐色の土を確認したが，これは樹痕の影響と思われる．遺構は検出されなかったが，現代埋土内より弥生土器を１点検出した．

写真136　№①作業風景（西より）

写真137　№①掘削状況（西より）

No.②カシは，国際交流会館Ｅ棟の北側に位置する．2.3×2.0mの楕円形の範囲を地表下0.4mまで掘削したが，埋土内におさまり遺構・遺物の検出はなかった．

写真138　No.②掘削状況（南東より）

No.③カシワは，寄宿舎男子Ｂ棟の南側に位置する．1.2×1.2mの範囲を，地表下0.2mまで掘削したが，すべて現代埋土内におさまった．根の周辺は黒褐色土となっていたが，これは移植された際の客土であると思われる．遺構・遺物の検出はなかった．

写真139　No.③掘削状況（北東より）

No.④クヌギは，寄宿舎男子Ｂ棟の北側にある雑木林の中に位置する．3.3×3.1mの範囲を地表下0.6mまで掘削した．地表下0.2mまでは腐葉土でその下は礫まじりのローム層であった．遺構・遺物の検出はなかった．

写真140　No.④掘削状況（北西より）

No.⑤モモは，寄宿舎女子寮棟の南側に位置する．1.4×1.7mの範囲を，地表下0.2mまで掘削したが，埋土内におさまった．遺構・遺物の検出はなかった．

写真141　No.⑤掘削状況（南西より）

No.⑥サクラは寄宿舎男子Ａ棟の北側の雑木林内にあり，北側の東部を西に走る道路沿いに位置する．3.0×1.5mの範囲を，地表下0.25mまで掘削したが，撹乱埋土内におさまった．遺物・遺構の検出はなかった．

写真142　No.⑥掘削状況（西より）

No.⑦マテバシイは，寄宿舎男子Ａ棟の南側緑地に位置する．切株の周囲2.0×1.5mを，0.1m程度すき取り，切り株に重機のバケットを掛けて引き倒した．残った根は引き抜いた．0.25～0.3mの窪地ができたが，埋土内であり，遺構・遺物の検出はない．

写真143　No.⑦掘削状況（東より）

№⑧マテバシイは，№⑦の東側約15mに位置する．切り株の周囲2.0×2.0mを10cm程度すき取り，切り株に重機のバケットを掛けて引き倒すと簡単に崩れた．根もほとんど残ってはいなかった．もっとも深いところで0.25mの窪地ができたが，埋土内であり，遺構・遺物の検出はない．

写真144　№⑧掘削状況（東より）

№⑨カシは，№⑥の14m東側で，小磧宿舎の出入り口の曲がり角付近で，南側に下る斜面に位置する．3.7×3.4mの楕円形の範囲を，地表下0.7mまで掘削した．掘削範囲の北側から西側にかけて，直径0.1m～0.4m大の石を８点程検出した．向きや位置に規則性はなく斜面に沿って出土したことから，これらの石は遺構ではなく，崩れて埋土内に紛れ込んだものと思われる．遺構・遺物の検出はなかった．

写真145　№⑨掘削状況（南東より）

№⑩カシは，小磧宿舎と寄宿舎男子Ａ棟をつなぐ通路の入り口から南東に22.00mの所に位置する．直径3.40mの円形の範囲を掘削した．根が太く既定の深さ1.50mでは除根できなかったため，地表下1.30mの所で根をチェーンソーでカットしている．1.05mまで撹乱埋土で，以下の層は礫を含むローム層となっていた．遺構・遺物の検出はなかった．

写真146　№⑩掘削状況（北東より）

３．（宇留毛）環境整備（擁壁）災害復旧工事に伴う立会調査（1627）

＜調査期間＞

2017年２月22・24日

＜調査面積＞

157.15m

＜調査員＞

吉留　広．

＜調査概要・結果＞

熊本地震の影響で，小磧宿舎２号棟の西側から南側にかけての擁壁に亀裂や膨れが生じ，崩落の可能性があった．そこで西側から南側にかけての擁壁の一部に高圧噴射撹拌工法による地盤改良をおこない，擁壁ブロックを新たなものに積みなおす工事と，南側擁壁にアンカー工法による擁壁補強工事をおこなうこととなった．

小磧宿舎２号棟の南東側の斜面には宇留毛小磧橋際横穴群があり当該地点でも横穴が検出される可能性があった．しかし，地盤が弱くなっているため調査でむやみに掘削を行うと崩落の可能性及び地盤改良の工事に支障をきたす可能性があった．

そこで事前に擁壁の上段と下段を対象に構造物ないし空洞がないか地下のレーダー探査をおこなうこととなった．レーダー探査の結果，地下に構造物や空洞は見受けられなかった．このため擁壁上段は工事によって生じる掘削での土層の確認や遺物の回収を主として立会った．今回の工事に伴い掘削が生じる作業として①～③の工程があった．

工程①：西側擁壁の上段37箇所に，幅0.05mのロッドの先端に装着したモニターで，ボーリングをおこないながら地中で高圧ジェットによりセメントミルクを噴射し，地盤との撹拌混合により0.7m程の円柱状の改良体をつくり地盤改良する．

工程②：亀裂や膨れが生じている擁壁ブロックを基礎とともに撤去する．

工程③：地下の擁壁ブロック・基礎等の構造物を外した後，下段を①と同様の方法で56箇所について地盤改良をおこなう．

以下，①～③の掘削結果を順に説明する．

①高圧噴射の際，吹き上がってくる泥水に遺物の混入がないかの確認であったが，ごく微量の水しか吹き上がっては来ず，遺物の検出はなかった．

②地盤改良をおこなった後，南北軸14.0m，北西－南東軸6.0mの範囲を，油圧ブレーカーを搭載したバックホーで，厚さ0.6mの擁壁ブロックを斫りながら撤去した．擁壁ブロックの撤去後，土層断面の確認をおこなったが，全面が裏込めの砕石となっており，包含層・遺物の検出はなかった．

地下の擁壁ブロック関しては，同範囲を幅1.0mで深さ地表下0.5mまでの掘削を伴った．掘削は擁壁際に並行して埋設してあった雨水管と擁壁の基礎の掘方埋土内におさまった．

③擁壁ブロックを支えていた基礎部分を外し地盤改良の工事に必要な範囲の掘削をおこなうため同範囲を幅3.0mで深さ地表下1.5mまで掘削した．この際，擁壁際に埋設してあった雨水管の除去もおこなった．擁壁際から0.5mの幅の範囲は，擁壁の基礎部分の掘方で砕石が敷かれており，既定の深さ地表下1.5mよりさらに深くなっていた．砕石より外側の2.5mはローム層をベースに礫を多く含む崩れ埋土であった．一部擁壁のカーブ付近に三日月状に橙色ローム層の地山が残っていた．地山を詳しく調べたところ黒褐色土が入り込んでいたが，これは遺構ではなく形状から矢板の抜取痕であると思われ

写真147　作業風景（北より）

写真148　西側擁壁ブロック除去作業風景（西より）

写真149　西側ブロック除去状況（西より）

写真150　南－北軸下段掘削状況（北より）

写真151　北西－南東軸下段掘削状況（北西より）

る．地盤改良は掘削した部分からさらに深さ４ｍにかけておこなうが，①と同様で遺物の確認はできない点と，遺物包含層には影響のない深度に達しているという点から，調査はここで終了とした．遺構・遺物の検出はなかった．

写真152　地山検出状況（南西より）

Ⅱ－10　渡鹿地区　（図11参照）

1．（渡鹿）台風15号に伴う被害樹木除根業務に伴う立会調査（1622）

＜調査期間＞

2017年１月30日

＜調査面積＞

15.25m（8.54㎡）

＜調査員＞

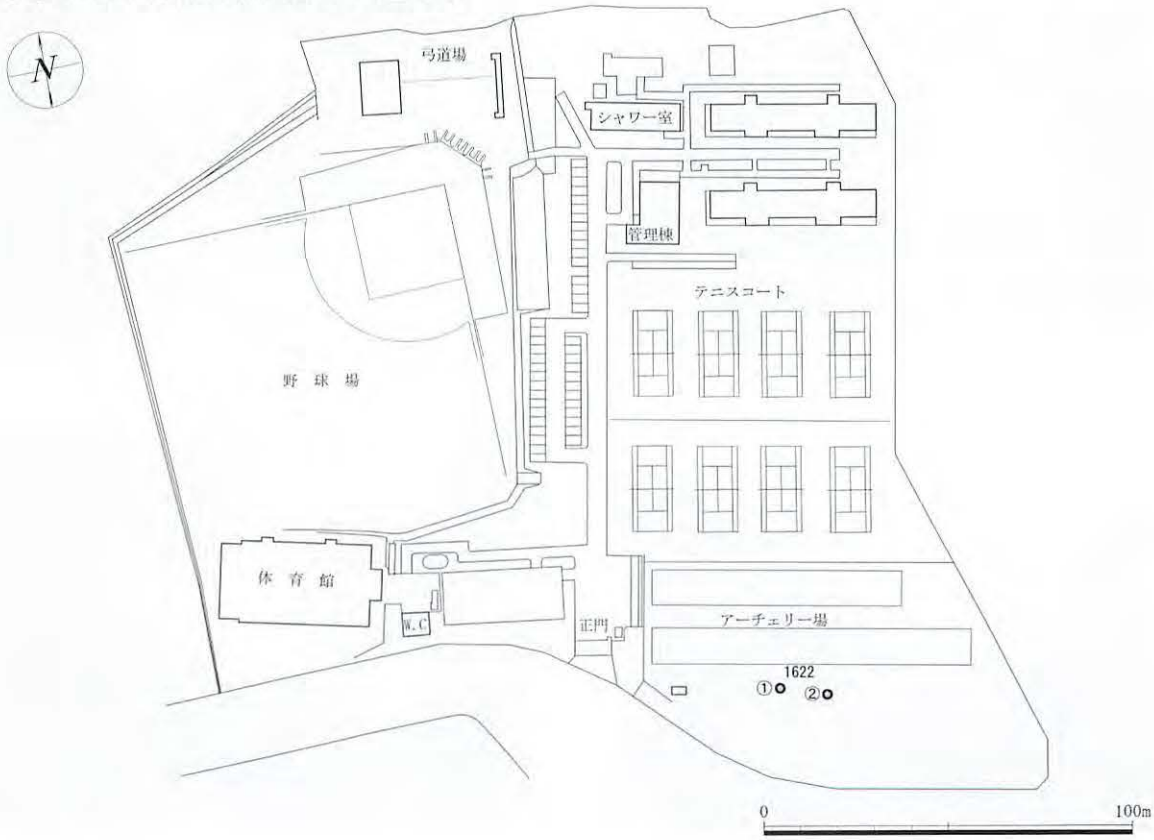
吉留　広．

＜調査概要・結果＞

平成27年台風第15号の影響で，倒木の被害を受けた樹木の除根業務に伴う立会調査である．本業務の対象は№①サクラ・№②スギの２箇所である．

№①は大江総合運動場の南東側にあるアーチェリー場と，その南側にある自動車部練習場を仕切るフェンス付近に位置する．アーチェリー場入口から東に13.0m，北に4.2mの位置を，幅1.6×1.9mの範囲で深さ地表下0.2mまで掘削した．この深さで根は大半が動いたため，重機を使って引き抜いたところ，中心部は0.35mの深さとなった．動いた土を除去し詳しく土を調べると，深さ0.25m～0.35mにかけて非常に硬く締まった硬化面と思

図11　渡鹿地区における調査地点配置図（1/2000）



われるものを２面確認できた．１枚目は橙色のロームブロックと黒色のブロックが多く混じる層で，２枚目は１枚目の橙色のロームブロックをあまり含まないものであった．２枚目の硬く締まった土には土師器片１点，４cm大の玉砂利数点，レンガ・瓦の破片数点を含んでいたため，この硬化面２枚は新しい時期のものであると判断した．根は深く張っておらず浅いところで抜けたため周辺の硬化面は掘削していない．

No.②はアーチェリー場入口から東側に31.0m，北側に0.2mの位置を幅2.2×2.5mの範囲で地表下1.0mまで掘削した．ここでもNo.①と同様の硬化面を確認した．硬化面は玉砂利，レンガ・瓦片を含み新しいものと判断できたので，さらに掘削していくと地表下0.4mでもう一枚硬化面を確認した．この３枚目の硬化面からは遺物は確認できなかった．その下層は，0.65mまで黒色土，１mまで褐色粘質土，地表下１mの所でローム層が一部頭を出した．樹木は既定の地表下１mで除根することができた．

熊本大学大江総合運動場は，1889（明治22）年から終戦を迎えるまで工兵第六連隊の兵営の敷地内であった．

1947（昭和22）年に米軍が撮影した航空写真を見ると，当該地点に道のようなものが見ることができる．また，1967（昭和42）年の航空写真にはこの道は写っていないことから，兵営であった敷地を東西に分断し，1951（昭和26）年熊本無線電信講習所の校舎として新築された時期にこの道はなくなったものと考えられる．

本地点は狭い範囲の調査であったが，離れた箇所から同じような硬化面の広がりを確認できた．この硬化面は，工兵第六連隊の兵営が運営されていた時期の路面の一部が検出された可能性がある．

近世以前の遺構は検出されなかった．

写真153　No.①作業風景（東より）

写真154　No.①硬化面検出状況（北西より）

写真155　No.①土層断面（西より）

写真156　No.②最終硬化面検出状況（北西より）

写真157　No.②掘削状況（東より）

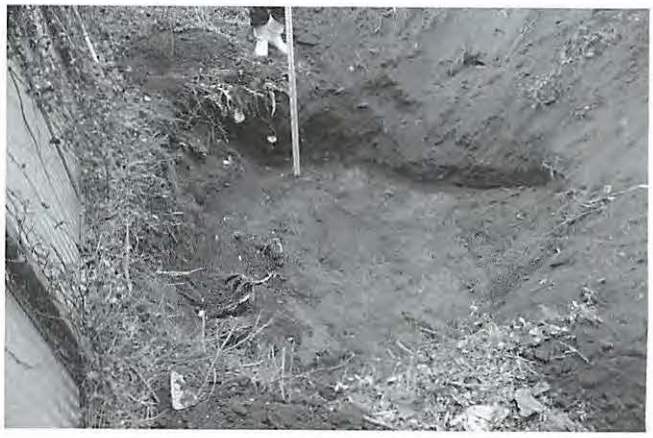


写真158　No.②土層断面（東より）

写真159　作業風景（北東より）

写真160　東端既設管箇所掘削状況（南より）

写真161　芝生箇所掘削状況（西より）

2．（渡鹿）渡鹿住宅２号棟屋外ガス管補修工事に伴う立会調査（1630）

＜調査期間＞

2019年３月１・17日

＜調査面積＞

14.9m

＜調査員＞

吉留　広.

＜調査概要・結果＞

熊本地震の影響でガス管が破損し，渡鹿住宅２号棟へガスが供給されなくなった．そのため渡鹿住宅２号棟東側の道路に南北軸で埋設してある既設管から盛替を行う工事に伴う立会調査である．

まず渡鹿住宅２号棟東側の道路部分に埋設してある既設管を探すため，幅1.0×1.5mの範囲を掘削した．地表下1.1mまでは撹乱埋土でその下層は橙色ローム層の地山となっていた．既設管は地表下1.1m程で管上を確認できた．ローム層内のガス管の掘方埋土を除去し遺構の検出を行ったが，何も検出されなかった．工事には管下から0.3m程のスペースが必要であったため，既定の地表下1.5mまで掘削した．既設管から西側に1.5mまでは地表下1.5mまで掘削し，それ以西の13mは地表下0.75mまで掘削した．すべて撹乱埋土内におさまっており，遺構・遺物の検出はなかった．

第Ⅲ章　平成28年度熊本地震に係る煉瓦等落下物に関する調査報告

平成28年４月に発生した熊本地震によって，五高記念館（旧第五高等中学校本館）の屋根に設置された煙突が破損，一部落下した．また，隣接する化学実験場の煙突も同様の被害を受けた．この他，建物内部でも煉瓦がひび割れ，漆喰が剥がれるなどの破損があった．両建物は，明治22年（1889）に竣工しており，昭和44年（1969）には国の重要文化財に指定されている．熊本の近代教育の中枢を担ってきた第五高等学校（開校当時は第五高等中学校）および熊本大学の教育施設であるとともに，現代まで残存した貴重な煉瓦建築である．

埋蔵文化財調査センター（以下センター）では近年の調査において，大学構内の煉瓦建築の基礎に係る立会・発掘調査を実施してきた．そのため遺物・遺構としての煉瓦のデータについて少なからず蓄積がある．センターでは落下した煉瓦あるいは瓦の調査を実施し，基礎データを収集の上，既存のデータと比較することで，明治期の煉瓦建築の歴史や大学史の復元に寄与することができると考えた．以下に調査の概要と調査結果について記していく．

＜調査期間＞

2016年７月21・22日，11月８日

＜調査参加者＞

木下尚子・松田光太郎・大坪志子・山野ケン陽次郎．吉留広・江口路・鬼塚美枝・首藤優子・末吉美紀・増井弘子．

＜調査の経過＞

2016年４月14日午後９時26分に発生した熊本地震の前震の揺れにより，本学構内の煉瓦建築が被害を受けたという情報を得た．翌日４月15日の早朝，黒髪北地区に所在する五高記念館と化学実験場の周辺を散策したところ，煉瓦を部材とした煙突や屋根瓦の一部が落下するなどの被害状況を確認できた（写真162～164）．この際，センターでは被害状況を写真撮影し，簡易的に記録した．また，落下した煉瓦中に「熊本監獄製造」印のおされた煉瓦を多数発見した．さらに４月16日午前１時25分に発生した熊本地震の本震によって，五高記念館や化学実験場だけでなく，黒髪南地区に所在する工学部研究資料館も外壁に亀裂が入るなど，被害が拡大した（写真165・166）．

センターでは近年，近代の煉瓦に関する考古学的調査を精力的に実施しており，文化財保護と学術的観点から落下物の調査の計画が持ち上がった．

７月６日に五高記念館の伊東龍一館長に煉瓦等落下物の調査を申請したところ，安全を確保した上での調査許可を得ることができた．また，施設企画課の藤崎司課長にも同様の許可を得て，調査の日程を調整した．７月14日には，伊東館長とセンター教職員５名で事前調査のため，落下した煙突周囲の現状確認と簡易写真撮影，現地における調査手順についての打ち合わせをおこなった．７月21・22日には，センター教員３名と技能補佐員・技術補佐員５名で，調査を実施，終了した．

11月初旬には，五高記念館および化学実験場の煙突の撤去作業が専門業者によって実施されていた．そのため伊藤館長と施設企画課の許可を得て，11月８日には，回収された一部の煉瓦・瓦の実見と簡易写真撮影を実施した．以上を持って，全ての調査を終了した．

本文を執筆中の2018年３月現在，五高記念館，化学実験場，工学部研究資料館は当面の地震対策として，鉄骨による外壁の補強が施された．今後４年程の歳月をかけて復旧工事が実施される予定である．

写真162　熊本地震直後の五高記念館正面（南より）

写真163　熊本地震直後の五高記念館煙突落下状況（北東より）

<調査の方法>

本調査では落下した煙突の部材である煉瓦の基礎データを記録することを第一の目標とした．また，煙突と共に落下した屋根瓦についても拓本や写真撮影による簡易記録を実施した．煙突の落下地点は五高記念館の北側３カ所および化学実験場の西側１カ所であり，最も広範囲に落下物が広がる五高記念館北壁東側をＡ地点とし，駐車場側をＡ-１地点，建物壁側をＡ-２地点に分けた（図12，写真169～172）．また，落下物の少ない北側中央入口付近をＢ地点，五高記念館北壁西側の煙突落下地点をＣ地点，化学実験場西壁北側をＤ地点とした．

各調査地点において，落下した煉瓦の寸法，刻印，加工痕跡などの情報を記録した．寸法は煉瓦の長手幅，小口幅，小口高の最大値を１㎜単位まで計測した．刻印は目視による確認の上，拓本とマクロ撮影による記録を実施した（写真167・168）．加工痕跡は写真撮影と簡易図の作成によって記録した．このほか個体の位置を把握するため，任意の角度からの遠景撮影もおこなった．

各地点の煉瓦の個数には差があり，全てを記録することは困難であった．調査期間も考慮し，１地点の最大記録数を30点と定めた．この際，モルタルが剥落したことにより各計測値を得やすい個体を優先して選択した．記録数はＡ地点30点，Ｂ地点３点，Ｃ地点30点，Ｄ地点６点の計69点である．また，拓本と写真のみによる記録を煉瓦６点，瓦７点について実施した（表３）．

調査に際してはヘルメットの着用を義務付け，調査期間中は関係者以外立ち入り禁止のプレートを提示するなどし，作業の安全面に考慮した．また，後の煙突の復旧作業に支障がないよう，記録を取った煉瓦や瓦は落下時の位置に戻した．

写真164　熊本地震直後の化学実験場煙突落下状況（西より）

写真165　熊本地震直後の工学部研究資料館（東より）

写真166　工学部研究資料館の控え壁の様子（東より）

写真167　伐採作業の様子（北西より）

写真168　拓本作業の様子（北より）

図12　黒髪北地区における煉瓦等落下物の調査地点（1/100）

写真169　A地点の落下物（南より）

写真171　C地点の落下物（南より）

写真170　B地点の落下物（北より）

写真172　D地点の落下物（北西より）

表3　五高記念館および化学実験場の落下煉瓦一覧表

地点	取上番号	計測値（cm）			刻印		煉瓦の種類	残存状況	拓本	備考
		長手幅	小口幅	小口高	監獄	イロハ印				
A－1	1	23.2	10.9	5.9	○	不明	普通煉瓦	一部欠け	○	
A－1	2	23.4	11.0	6.1	○	不明	普通煉瓦	完形	○	
A－1	3	23.3	10.6	6.2	○	タ	普通煉瓦	完形	○	
A－1	4	23.3	10.9	6.4	○	ニ	普通煉瓦	完形	○	一辺に一条の溝あり
A－1	5	19.0～	10.9	5.9	○	チ	普通煉瓦？	一部欠け	○	
A－1	6	22.7	10.8	5.8	○	チ	普通煉瓦	完形	○	
A－1	7	23.5	10.0～	6.1	○	ホ	普通煉瓦加工	一部欠け	○	
A－1	8	23.1	10.8	6.0	○	タ？	普通煉瓦	完形	○	
A－1	9	23.0	10.9	5.9	○	ヘ	普通煉瓦	完形	○	
A－1	10	22.4	10.7	6.1	○	カ	普通煉瓦	完形	○	
A－1	11	22.7	10.5	5.6	×	不明	普通煉瓦	一部欠け	○	監獄印は確認できない
A－1	12	20.7～	11.0	6.0	○	チ	七五	完形	○	
A－1	13	22.6	11.0	5.9	○	ハ	普通煉瓦	完形	○	
A－1	14	23.0	11.0	6.2	○	ル	普通煉瓦	一部欠け	○	
A－1	15	21.0～	11.1	6.0	○	ル	七五	完形	○	
A	拓1	－	－	－	○	タ？	七五	一部欠け	○	拓本では「タ」がとれていない
A	拓2	－	－	－	○	ホ	普通煉瓦？	一部欠け	○	
A	拓3	－	－	－	○	ホ？	普通煉瓦	完形	○	二個体がモルタルでつながっている
A	拓4	－	－	－	○	レ	普通煉瓦	一部欠け	○	二個体がモルタルでつながっている
A－2	1	23.3	11.0	6.1	○	ホ	普通煉瓦	完形	○	
A－2	2	22.9	10.9	6.0	○	タ	普通煉瓦	完形	○	拓本では「タ」がつぶれている
A－2	3	23.1	10.8	6.1	○	タ	普通煉瓦	完形	○	拓本では「タ」がつぶれている
A－2	4	23.0	11.3	6.0	○	ホ	普通煉瓦	一部欠け	○	
A－2	5	22.9	10.9	5.8	○	ヘ	普通煉瓦	完形	○	
A－2	6	16.0～	11.0	6.0	○	タ	七五	一部欠け	○	
A－2	7	22.7	11.0	6.1	○	タ	普通煉瓦	一部欠け	○	
A－2	8	23.0	11.0	6.1	○	チ	普通煉瓦	一部欠け	○	
A－2	9	18.8～	10.9	6.1	○	ヘ	普通煉瓦	一部欠け	○	
A－2	10	23.3	11.0	6.0	○	不明	普通煉瓦	完形	○	
A－2	11	23.0	11.0	6.0	○	不明	普通煉瓦	完形	×	監獄印の拓本はとれていない
A－2	12	18.2～	11.0	6.1	○	ル	普通煉瓦	一部欠け	○	拓本では「ル」がとれていない
A－2	13	22.4	10.7	6.1	○	ワ	普通煉瓦	完形	○	
A－2	14	23.3	11.0	6.1	○	不明	普通煉瓦	完形	○	
A－2	15	22.8	10.8	6.1	不明	不明	普通煉瓦	完形	×	拓本はとっていない
B	1	23.4	11.2	6.6	○	ホ	普通煉瓦	完形	○	
B	2	－	10.3	6.2	○	不明	普通煉瓦？	半欠	○	監獄印は一部のみ拓本とれている
B	3	－	－	－	○	不明	不明	半欠	○	監獄印は一部のみ拓本とれている
C	1	23.3	11.1	6.3	不明	不明	普通煉瓦	一部欠け	×	
C	2	23.1	10.8	5.9	不明	不明	普通煉瓦	一部欠け	×	
C	3	20.5～	10.9	6.0	○	タ	普通煉瓦	一部欠け	○	
C	4	22.8	10.7	6.0	不明	不明	普通煉瓦	完形	×	
C	5	20.5～	11.0	6.0	○	ホ	七五	完形	○	拓本では「ホ」がとれていない
C	6	23.0	11.0	5.8	不明	不明	普通煉瓦	一部欠け	×	
C	7	22.9	10.9	6.2	○	×	普通煉瓦	完形	○	
C	8	23.0	10.9	6.1	不明	不明	普通煉瓦	完形	×	
C	9	22.9	11.0	6.4	不明	不明	普通煉瓦	完形	×	
C	10	22.9	11.0	6.0	×	不明	普通煉瓦	一部欠け	×	
C	11	22.7	11.0	6.0	不明	タ	普通煉瓦	一部欠け	×	拓本では「タ」がとれていない
C	12	21.0～	11.0	6.0	○	ヘ	普通煉瓦	一部欠け	○	
C	13	22.8	11.2	6.1	○	ヘ or タ	普通煉瓦	一部欠け	○	
C	14	22.6	10.9	5.9	不明	不明	普通煉瓦	完形	×	
C	15	22.8	10.7	6.2	○	ヨ	普通煉瓦	完形	○	拓本では「ヨ」はほとんどとれていない
C	16	23.0	10.5	5.8	不明	不明	普通煉瓦	完形	×	
C	17	22.8	11.0	6.0	不明	不明	普通煉瓦	一部欠け	×	
C	18	22.7	11.1	5.7	○	不明	普通煉瓦	一部欠け	×	
C	19	22.2	11.0	6.0	不明	不明	普通煉瓦	一部欠け	×	
C	20	22.2	10.3	6.1	不明	不明	普通煉瓦	一部欠け	×	
C	21	22.7	11.0	6.0	○	タ	普通煉瓦	完形	○	
C	22	22.8	10.8	5.9	○	ワ or ウ	普通煉瓦	一部欠け	○	
C	23	22.1	10.3	5.7	不明	不明	普通煉瓦	完形	×	
C	24	23.5	11.0	6.0	不明	不明	普通煉瓦	一部欠け	×	
C	25	22.5	11.0	6.0	○	不明	普通煉瓦	一部欠け	×	監獄印欠けているので拓本なし
C	26	22.6	10.8	6.0	○	ホ	普通煉瓦	完形	○	
C	27	23.1	11.0	6.0	不明	不明	普通煉瓦加工	完形	×	
C	28	16.0～	11.5	6.0	○	不明	七五	一部欠け	○	
C	29	未計測	11.0	未計測	不明	不明	七五加工	一部欠け	×	
C	30	15.5～	11.0	6.2	不明	不明	七五？	一部欠け	×	
C	拓1	未計測	未計測	未計測	○	リ or ワ	普通煉瓦？	一部欠け	○	
C	拓2	未計測	未計測	未計測	○	ロ	普通煉瓦？	一部欠け	○	「ロ」が二度おしてある
D	1	21.8	10.5	5.6	不明	不明	普通煉瓦	完形	×	
D	2	22.5	10.8	6.0	不明	不明	普通煉瓦	一部欠け	×	
D	3	22.5	10.5	5.7	不明	不明	普通煉瓦	完形	×	
D	4	22.2	10.5	6.0	不明	不明	普通煉瓦	完形	×	
D	5	16.8～	10.5	6.3	不明	不明	七五	一部欠け	×	
D	6	21.2～	7.9	6.3	不明	不明	七五加工	完形	×	

※「刻印」中、「不明」はモルタルで隠れており、刻印の有無が不明のもの。「？」は判別困難。「×」は刻印がないもの。

＜調査結果＞

（1）寸法

煉瓦の寸法は，長手幅，小口幅，小口高の各最大値をcm単位まで計測した（表３・図13）．計測データが１点のみのＢ地点を除いたＡ・Ｃ・Ｄ地点の最小値と最大値を示したのが表４，平均値を示したのが表５－１～３である．平均値をみると，五高記念館のＡ・Ｃ地点が長手幅22.8～23.0cm，小口幅10.9cm，小口高6.0cmというようにほぼ寸法が同じであるのに対し，化学実験場のＤ地点は長手幅22.3cm，小口幅10.6cm，小口高5.8cmと一回り小さいことがわかる．７月の本調査ではＤ地点の煉瓦中に「熊本監獄製造」印を確認できなかったが，11月の追調査の際に本地点でもこの印がおされた煉瓦が発見されていることから，五高記念館の煉瓦と同様，熊本監獄煉瓦製造所で製作されたと考えて問題ない．同製造所で製作されているにもかかわらず，化学実験場の方が五高記念館の煉瓦よりやや小型ということになる．地震以後に東京国立文化財研究所の近代化遺産研究室が確認した化学実験場外壁の煉瓦寸法の平均値を参照にすると，長手幅22.1cm，小口幅10.4cm，小口高5.8cmというように，やはり五高記念館の煉瓦より小型であることが確認できた（表５－４）．これは，煉瓦を製造する段階でサイズの異なるものを計画的に用意したか，あるいは煉瓦個別の含水量や内容物の違いにより焼成時にサイズの異なるものが生成されたことが原因で，これらを大型品と分けて消費するために化学実験場で用いた可能性がある．旧第五高等学校表門（通称赤門）の地上部分の煉瓦寸法を任意で10点計測し平均を算出したところ，長手幅23.0cm，小口幅11.0cm，小口高6.0cmであり，Ａ・Ｃ地点と差がない（表５－５）．大学構内遺跡の黒髪北地区1528調査地点では，第五高等学校の寮であった習学寮の厨房の煉瓦基礎跡が発見されており，その平均値もＡ・Ｃ地点と僅差である（表５－６）．同時期に築造された表門や厨房では五高記念館と同規格の煉瓦が用いられたことがわかる一方で，化学実験場の煉瓦サイズが比較的小型であることを明確に示している．

大高庄右衛門は明治30年代に関東で使用された煉瓦を寸法から分類しており，東京形，並形，作業局形，山陽形，山陽新形をあげている（大高1905）．このうちＡ・Ｃ地点に最も近いのが長手幅22.7cm，小口幅10.9cm，小口高6.1cmの東京形で，小口高と小口幅はほとんど変わらず，長手がやや短い．長手幅については焼成などによる誤差の範囲内と思われ，五高記念館の煙突使用の煉瓦は東京形に寸法が類似するといえる．ただし，大学構内

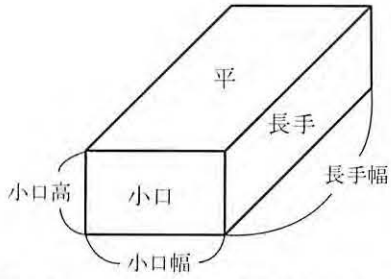


図13　煉瓦の各部位名称と計測箇所

表4　各調査地点の煉瓦寸法の最小値と最大値

調査地点	計測値（cm）		
	長手幅	小口幅	小口高
Ａ地点	22.4～23.4	10.5～11.3	5.6～6.4
Ｃ地点	22.1～23.5	10.3～11.2	5.7～6.4
Ｄ地点	21.8～22.5	10.5～10.8	5.6～6.0

表5　各調査地点の煉瓦寸法の平均値と寸法類例

No.	調査対象	年代	計測値（cm）※			計測数	備考	参照
			長手幅	小口幅	小口高			
1	Ａ地点（五高記念館煙突）	1889年竣工	23.0	10.9	6.0	23	熊本監獄煉瓦製造所	本論
2	Ｃ地点（五高記念館煙突）	1889年竣工	22.8	10.9	6.0	24	熊本監獄煉瓦製造所	本論
3	Ｄ地点（化学実験場煙突）	1889年竣工	22.3	10.6	5.8	4	熊本監獄煉瓦製造所	本論
4	化学実験場外壁	1889年竣工	22.1	10.4	5.8	7	熊本監獄煉瓦製造所	本論
5	熊本大学表門外壁	1889年竣工	23.0	11.0	6.0	10	熊本監獄煉瓦製造所	本論
6	第五高等学校習学寮厨房基礎	1889～1890年竣工	23.1	10.9	6.0	23	熊本監獄煉瓦製造所	松田・吉留2017
7	赤瀬トンネル	1899年製造	22.1	11.0	5.2	40～	熊本県宇土市	高柳・山尾2004
8	万田坑	1897年製造	22.4	10.8	6.1	40～	熊本県荒尾市	高柳・山尾2004
9	烏帽子坑	1897年製造	21.4	9.6	5.1	40～	熊本県天草市	高柳・山尾2004
10	第二海堡跡右翼北側	1889起工～1914竣工	21.3	10.1	5.6	6～22	小菅集治監製造	野口他2015
11	第二海堡跡中央部北側	1889起工～1914竣工	21.2	10.1	5.6	6～22	小菅集治監製造	野口他2015
12	第二海堡跡中央部北側倉庫	1889起工～1914竣工	21.8	10.3	5.7	6～22	小菅集治監製造	野口他2015

※平均値の小数点第２位は四捨五入した。

の煉瓦寸法と比較するだけでは誤差がどの程度のものか判断しづらいため，熊本県内３カ所と東京湾の第二海堡の煉瓦寸法との比較もおこなった（表５-７～12）．これにより大学内で使用された煉瓦は比較的東京形に近しい規格であったことが明確になった．

（２）刻印

本調査で確認された煉瓦には，1.6cm×3.7cmの長方形の枠に「熊本監獄製造」と書かれた刻印と，１cm×１cm程のカタカナ一文字が書かれた刻印の２種類が見受けられる（図14）．

「熊本監獄製造」印は，刻印を確認した75点の煉瓦中49点におされていた．表面がモルタルで覆われて刻印の有無を確認できなかった24点を除くと，２点以外の全ての煉瓦にこの刻印がおされていたことになる．その押印位置は平部分であり，長軸方向中央におされたものが多く，中央からややずれた位置におされたものも見受けられる．大学史や当時の新聞記事には立田山の南西麓，細川家の菩提寺である泰勝寺の参道下に熊本監獄煉瓦製造所が設けられ，明治21年から明治22年の短期間の間，第五高等中学校の建造物のために煉瓦を生産していたことが記載されている（五高創立七十周年記念会1957，新熊本市史編纂委員会編1997）．明治21年３月18日付の『紫溟新報』には「同囚徒中熟練の者は１日に300個余りの生産をおこない，その品位も良かった」とある（紫溟新報社1888）．この熊本監獄煉瓦製造所は現在のリデル・ライト両女史記念館の立地する敷地周辺にあったと考えられ，これを裏付けるように現在でも敷地内で「熊本監獄製造」の刻印がおされた煉瓦が表面採集でき，地表には埋もれた煉瓦が散見できる．

カタカナの刻印は75点中39点に確認できた．刻印自体が小さいため，モルタルに一部覆われている煉瓦35点については有無不明だが，１点を除いた全ての煉瓦に刻印が存在することがわかる．カタカナの種類は，読み取れる確実な例で「タ」が８点と最も多く，次に「ホ」が７点，「へ」と「チ」が４点，「ル」が３点，「ロ・ハ・ニ・リ・ワ・カ・ヨ・レ」が各１点確認できた（図15）．またリデル・ライト両女史記念館で表面採集した煉瓦には「イ」の刻印がおされたものが確認できた．よって，これらカタカナはイロハ歌の前半部分の文字のみが使用されていることが明らかである．押印位置は全て平部分であり「熊本監獄製造」印に隣接しておされる場合もあれば，やや小口側に近い位置におされる例，「熊本監獄製造」印とは上下逆におされた例，打ち直した例などがある．こうしたカタカナ印の類例は，東京の小菅集治監に関連する海堡（野口ほか2015）などの建造物や奈良少年刑務所の煉瓦においても確認されており（水野2001），監獄の囚人グループが製造した煉瓦の品質管理や生産量を把握するための責任印の可能性が考えられる．

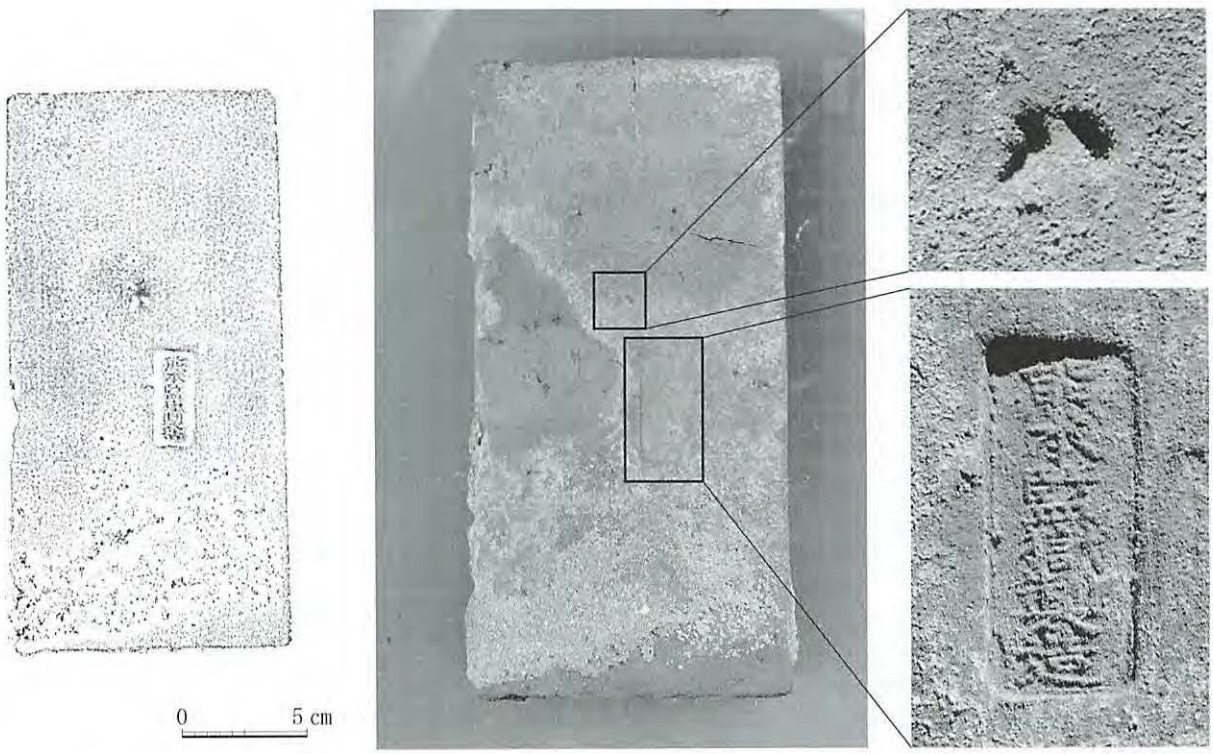


図14　五高記念館の落下煉瓦におされた刻印の拓本と写真（表3-A-1-13，「ハ」・「熊本監獄製造」）

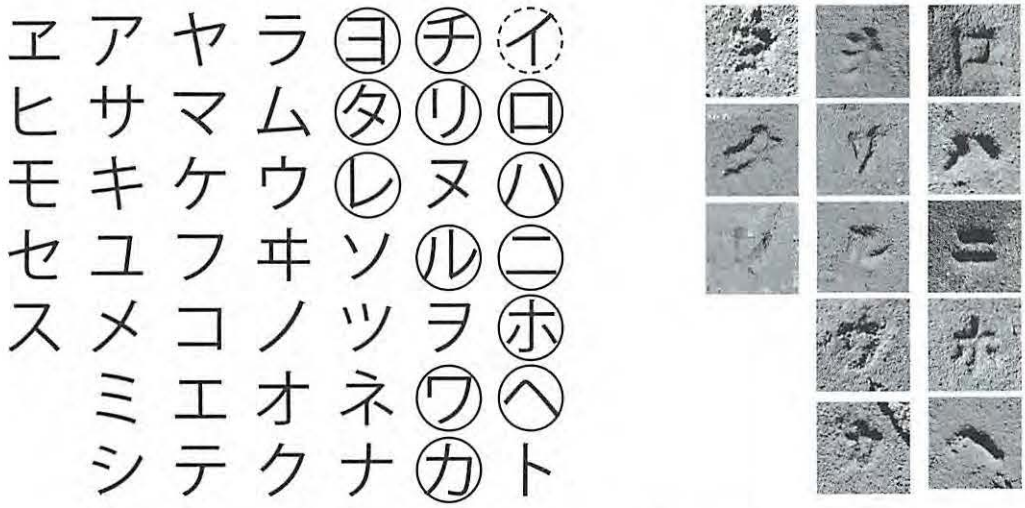


図15　イロハ歌のカタカナを使用した刻印

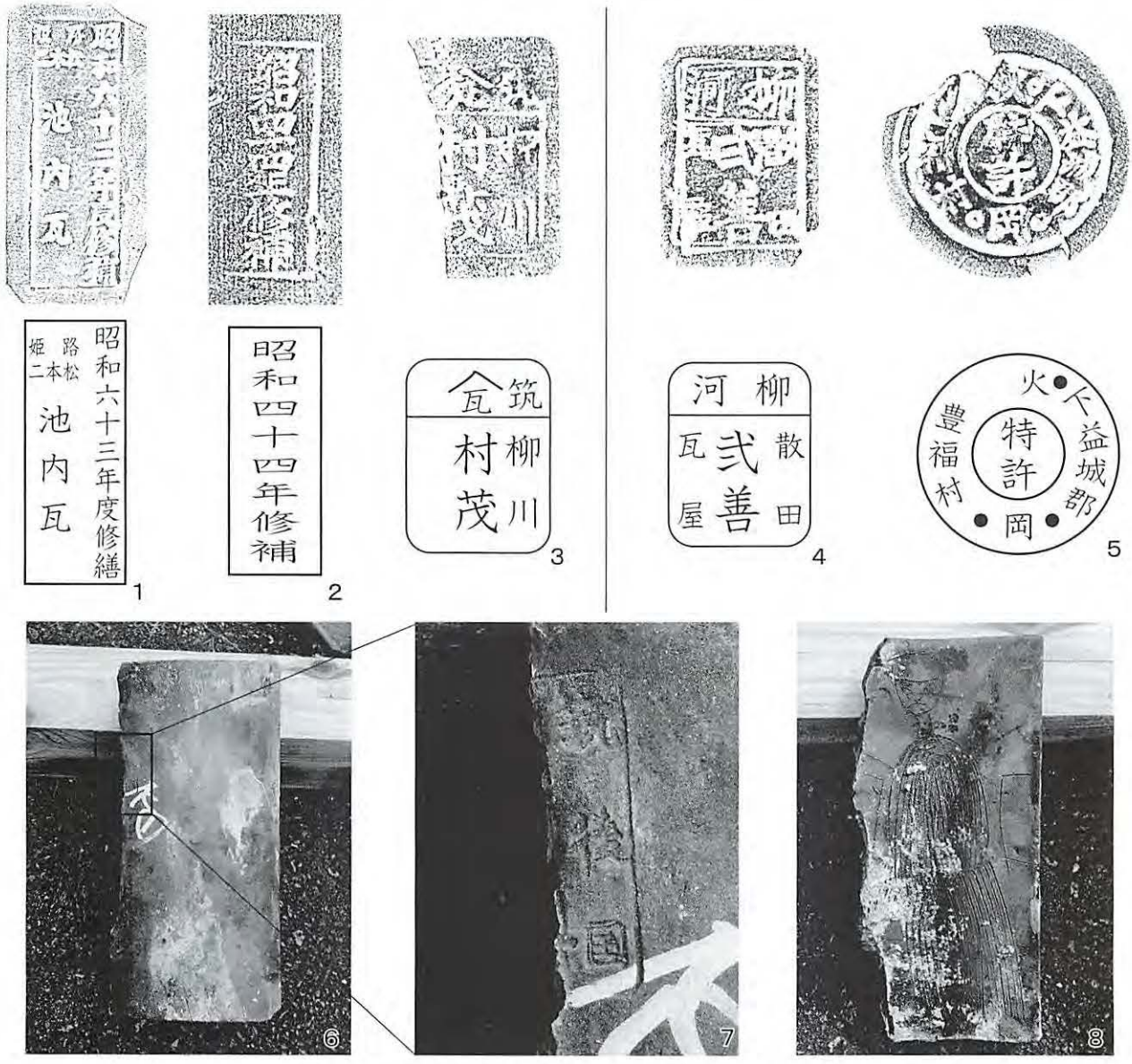


図16　五高記念館と化学実験場の落下瓦におされた刻印

（1～3：五高記念館の落下瓦　4・5：1360調査地点出土瓦　6～8：化学実験場の落下瓦）

このほか瓦の刻印についても簡易な調査を実施した．A・D地点で各２点，B地点で３点の計７点の瓦に刻印を確認できた（図16－１～３）．瓦には３つのタイプの刻印が施されており，A地点では「昭和六十三年度修繕　姫路　二本松　池内瓦」印が（図16－１），B地点では「昭和四十四年修補」印が（図16－２），B地点では上記「池内瓦」印と「筑□（後？）　瓦　柳川　村茂」印が認められる（図16－３）．「池内瓦」印が最も多く，現在の兵庫県に所在する株式会社池内瓦が昭和63年度に五高記念館などの修繕をおこなった記録と一致する．またそれ以前に，昭和44年度にも瓦の補修がおこなわれていることがわかる．この種の瓦は11月の追調査の際，化学実験場の落下瓦の中にも確認できた．昭和44年は五高記念館や化学実験場，表門が国の重要文化財に指定された年であり，この際の修繕の瓦と思われる．「柳川」印については，センターにおける黒髪北地区1360調査地点の立会調査において，五高記念館北壁西側の基礎確認の際，現代埋土中から「柳河　散田　弐善　瓦屋」印のおされた瓦が検出されており（大坪編2015，図16－４），今回の落下した瓦も含め現在の福岡県柳川市付近で製作された瓦と考えられる．このほか同調査地点では「特許　□□火（不知火？）下益城郡　岡　豊福村」印が出土したほか（図16－５），11月に実施した追調査では化学実験場の落下瓦中に「筑後国」印が確認されている（図16－６・７）．また，特殊なものとして瓦の裏面にヘラによる落書きが施されたものも見受けられた（図16－８）．筑後または柳川の印が押された瓦については，福岡県北九州市小倉城御普請所跡１番石垣跡や福岡県柳川市矢加部町屋敷遺跡において同様の刻印がおされた瓦が見つかっており（福岡県教育委員会編2011），近世あるいは近代でも古手のものと思われる．落下物中これらは数量的に少なく，多くは平瓦が縦に半裁された形状の熨斗瓦である（図16－６）．こうした瓦は，五高記念館や化学実験場の煙突基部に認められる漆喰で覆われた熨斗瓦として使われた可能性があり，昭和44・63年度の補修の際にも交換されずに現在まで残ったものと思われる．

（３）加工痕跡

加工痕跡に関する記録は，簡易図作成と写真撮影による記録にとどめた．ほぼ全ての煉瓦の平部分表面に，木板などにより撫でた痕跡が確認できる．これは箱型の成形用枠に粘土を詰め込んだのち，余った粘土を針金で削りとり，最後に表面を撫板で撫でて成形したことによる（諸井1902）．このことから，これらが「機械成形」でなく一つ一つ手作りの「手抜成形」であったことがわかる（水野1999）．また，平部分の長軸端部に幅１～３cmの線状の溝が１条入るものがあり，これらは発掘調査で出土した煉瓦にも多く認められる．製作工程に係る痕跡と考えられるが，現状では解明できていない．そのほか，平や長手表面の色調が部分的異なる個体があった．その範囲が煉瓦の小口高の値とほぼ変わらないことから，煉瓦を重ねて焼成した際に，被熱の具合や焼成温度に差が生じてできた痕跡と思われる．形態は普通煉瓦，いわゆる「おなま」がほとんどだが，これを打ち割って成形した「七五」や，煙突の端に利用するため，端部を粘土成形後に削り取った特殊な形状の煉瓦を確認できた．

＜まとめ＞

今回の調査を実施したことにより，これまで不明瞭であった五高記念館や化学実験場など，第五高等中学校・高等学校期の煉瓦建築について以下の知見を得ることができた．

・五高記念館の煙突に使用された煉瓦は，寸法平均値が長手幅22.9cm，小口幅10.9cm，小口高6.0cmである．一方で，化学実験場の煙突に使用された煉瓦は，寸法平均値が長さ22.3cm，小口幅10.6cm，小口高5.8cmとやや小さい．両者の規格に差が認められ，表門や厨房など他の第五高等中学校の建築と比較しても化学実験場の煉瓦が小型であることが明確となった．各建物で煉瓦のサイズを取捨選択し使用していたことがわかる．これら第五高等中学校の煉瓦は，明治30年代の大高分類の中の「東京形煉瓦寸法」に最も近しいことがわかった．

・煉瓦には「熊本監獄製造」印がおされており，その周囲にカタカナ印が押されている．カタカナはイロハ歌の前半部分の文字のみが使用されている．五高記念館と化学実験場の煉瓦は，明治21年から22年にかけて熊本監獄の囚人が製造したもので，カタカナ刻印は囚人グループの責任印の可能性がある．

・各建物の瓦には，昭和63年度補修の池内瓦のほか，国指定重要文化財に指定された昭和44年の補修瓦，筑後国・柳川産の瓦が確認されており，竣工以降複数回にわたり瓦の修繕があったことがわかる．筑後国・柳川産瓦は発掘調査成果などから近代でも古手と考えられ，築造当時の瓦の可能性がある．これらは煙突基部に現在まで残存していた熨斗瓦と考えられる．

・加工痕跡から手抜き成形の瓦であることがわかる．このほか，製作技術に関する各種の痕跡を認めることができた．

（文責：山野）

（引用・参考文献）

大高庄右衛門 1905「煉瓦の形状について」『建築雑誌』19（225）663－663頁 日本建築学会

大坪志子編 2015『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報20 2013年度』熊本大学埋蔵文化財調査センター

熊本大学60年史編纂委員会編 2014「特論６ 熊本大学の文化遺産」『熊本大学60年史 通史編』788－802頁 熊本大学60年史編纂委員会

五高創立七十周年記念会編 1957「高中時代：明治二十年から明治廿七年まで」『龍南への郷愁』14－40頁 五高創立七十周年記念会

新熊本市史編纂委員会編 1997『新熊本市史　史料編』

高柳正勝・山尾敏孝 2004「構造材料からみた熊本県の近代土木遺産の特徴に関する考察」『土木史研究　講演集』Vol.24 235－242頁 土木学会

野口孝俊・浦本康二・鈴木武 2015「明治期に建設された東京湾砲台群における煉瓦の調達に関する一考察－第二海堡跡煉瓦構造物調査－」『土木学会論文集 D2（土木史）』Vol.71 №1 1－10頁 土木学会

福岡県教育委員会編 2011『矢加部町屋敷遺跡Ⅳ・蒲船津西ノ内遺跡・蒲船津水町遺跡』有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告第12集 福岡県教育委員会

松田光太郎・吉留広 2017「３．（黒髪北）総合研究棟（黒髪北 N9）改修工事に伴う立会調査（1528調査地点）」『熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅻ』45－55頁 熊本大学埋蔵文化財調査センター

水野信太郎 1999「第４章 煉瓦製造の工程」『日本煉瓦史の研究』171－233頁 法政大学出版局

水野信太郎 2001「国内煉瓦刻印集成」『産業遺産研究』8 51－71頁 中部産業遺産研究会

諸井恒平 1902『煉瓦要説』博文館

第Ⅳ章　文化財活用活動の記録

埋蔵文化財調査センターは，1994年より実施している構内遺跡の調査成果やその重要性について，生涯教育での活用を目的として，展示などの活動を通じて大学内外に発信している．2016年度は，年度頭初となる４月に熊本地震の発生があったが，復興への取り組みとして以下の活動を実施した．

１．地下と地上の文化財散歩

＜開催期間＞

2016年６月27日～７月１日

＜開催場所＞

黒髪南地区，本荘北地区

＜概要＞

６月27～29日は黒髪南地区で実施した．コースは総合情報統括センター（集合）→ 工学部駐車場 → 工学部研究資料館横 → 工学物研究棟Ⅰ → 理学部棟南東部 → 埋蔵文化財調査センター（遺物見学・解散）で，所要時間は1時間程度である．27・28日は雨天で，センターの展示解説を実施した．

６月30日・７月１日は本荘北地区で実施した．コースは医学部附属病院外来診療棟（集合）→ 基礎医学研究棟 → 外来診療棟東側駐車場 → 西病棟 → 山崎記念館（解散）で，所要時間は１時間程度である．

本年度は，本荘キャンパスにも主要調査地点のサインが設置され，これらを活用しながら，調査員がパネル等を用いて各地区の古代の様子について解説を行った．学内外から50名の参加があった．

＜掲載記事・報道＞

2016年春季：熊大通信 vol.60

2016年夏季：熊大通信 vol.61

写真173 「地下と地上の文化財散歩」黒髪地区実施状況

写真174 「地下と地上の文化財散歩」本荘地区実施状況

２．速報展『RENGA―遺跡から見えた近代―』

＜開催期間＞

2016年11月１日～2017年４月28日

2016年11月10日，12月６日　展示解説

＜開催場所＞

埋蔵文化財調査センター展示室

＜概要＞

2015年度の発掘調査成果の公表として，速報展を開催した．

今回は，現地説明会を実施した熊本高等工業学校初代本館の基礎に関する調査成果を中心に，赤煉瓦調査の成果も含め，近代の赤煉瓦建物に焦点を当てた．また，発掘資料と五高記念館所蔵品を展示し，旧第五高等中学校時代の学生の生活の様子も展示した．開催期間中に実施した展示説明会には，17名の参加があった．

写真175　速報展　展示説明会実施状況

＜掲載記事・報道＞

2016年11月３日　熊本日日新聞５面
2016年11月８日　西日本新聞22面
2016年12月16日　毎日新聞
2016年12月３日　くまにち　あれんじ
ケーブルテレビJ:com

３．授業等への協力

2016年７月15日：本学文学部杉井健准教授と受講生20名がセンター展示室を見学.

写真176　センター展示見学の様子

跋　文

「熊本地震」の被害をうけた2016年度の年報をまとめることができ，安堵している．序文に記したとおり，それは偏にセンターの皆さんの尽力によるものである．

2016年度末は我われ熊本大学埋蔵文化財調査センターにとって，一つの節目となった．５年間にわたって勤務された松田光太郎准教授が任期満了で退職し，センターの設立以来，センター長を務められてきた木下尚子教授がセンター長の任を終えられた．お二人の長年の貢献に感謝申し上げる．

2016年４月からは濵田春美さんに事務補佐員を務めていただいている．次年度以降は「熊本地震」の復興工事による発掘調査が本格化し，繁忙を極めることが予想されるが，センターのスタッフ一同，新たな体制の下でしっかりと責務を果たしていきたいと考えている．また，携帯端末用アプリ「クマダイ遺跡巡り」を使用する準備を整え，本年度から授業協力・地域貢献に活用する予定であった．残念ながら「熊本地震」の影響により断念したが，来年度以降，積極的に活用していきたいと考えている．

これまで以上にセンターへのご理解とご鞭撻をお願いする所存である．

2018年３月

国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査センター

センター長　伊藤正彦

Summary

On April 14 and 16, 2016, the Kumamoto earthquake occurred. The series of earthquakes including magnitude 7 main shock which struck beneath Kumamoto City of Kumamoto Prefecture in Kyushu Region. Outbreak of 2 big earthquakes is the first example ever recorded in Japan. The heavy damage occurred in Kumamoto and Oita Prefecture especially centered in Mashiki area

The many buildings and cultural assets were also damaged at Kumamoto University,
Some of the laboratories, student's study rooms, and offices were forced to evacuate from the building which was judged danger. The office of Facilities Planning Division and Facilities Management Division of Administrative Department were the one of them. The staffs had to take enormous efforts and time into grasping damage situation.

Therefore, redevelopment project plan was brought back to square one in current year. The number of investigations in the current year is 36, and all of them were presence investigations. Many constructions ware measures against damage by Kumamoto earthquake. So that most of the works were countermeasure of Kumamoto earthquake construction. For example, the construction of temporary school buildings etc. And some works were restoration work of the trees that fell down in the tropical cyclone 1515.

At 1611 investigation point, we got the interesting result. This work was building the fence around the temporary parking lot that was made at the playground Buhugen in the Kurokami north area. In that area, we found the detection depth of the layer containing cultural remains and structural remains and it's very important information for restoration of ancient geography.

In 2017, we require cooperation with Administration Bureau and other connection post for reopening of reserved works and enforcement of the work for the revival. We will utilize the investigation result that accumulated so far, and we will strive to restoration.

Finally, we would like to offer our heartfelt sympathy to the people living in the regions hit by the earthquake.

헤이세이[平成]28(2016)년 4월 14일, 마시키정[益城町] 을 진원지로한 최대 진도 7 규모인 구마모토지진의 전진이 발생, 16일에는 최대 진도 7 규모의 본진이 발생했다. 진도 7 규모의 지진이 두번이나 발생한 것은 관측사상 첫 사례이고, 마시키정을 중심으로 구마모토현 및 오오이타현에서는 심대한 피해를 입었다.

구마모토대학에서도 많은 건물들과 문화재들이 피해를 입었다. 위험하다고 판정된 건물의 교원 및 학생 연구실, 사무 관련부서는 퇴거할 수 밖에 없었으며 운영기반관리부도 그러한 부서 중 하나였다.

운영기반관리부는 본 대학이 보유한 캠퍼스의 피해상황 파악과 대처에 방대한 인적 에너지와 시간을 쓰게 되었다.

이 때문에 금년도 계획되어 있던 사업은 일단 보류할 수 밖에 없는 상황이 되었다. 따라서 금년도에 실시한 조사는 입회조사가 36건이다. 사업 내용은 가설교사 건설 등, 구마모토지진에 따른 피해대응이 대부분이며, 그 외는 2015년의 태풍 15호에 의해 넘어진 나무의 복구 작업 이었다.

그 가운데 1611 조사지점에서는 흥미로운 결과를 얻을 수 있었다. 이 공사는 구로카미 북지구에 있는 운동장 부후겐 (武夫原) 에 설치할 가설주차장 주위에 펜스를 설치하는 공사이다. 18지점에 걸친 지주부분의 굴착 과정에서 유물포함층과 유구면 (地山) 이 검출되는 깊이를 자세히 파악할 수 있어, 구로카미 북지구 캠퍼스의 옛날 지형을 복원하는 데 유용한 정보를 얻을 수 있었다.

2017년도는 보류되었던 사업의 재개 및 부흥을 향한 사업 실시 등, 매장문화재 조사센터와 운영기반관리부 및 관련부서와의 밀접한 연계와 노력이 요구된다. 지금까지 축적해 온 조사성과를 충분히 활용해 부흥사업에 임하고자 한다.

마지막으로, 구마모토지진으로 재해를 입은 모든 분들께 심심한 위로의 말씀 드립니다.

付篇１　2016年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

１．熊本大学埋蔵文化財調査センター規則（H29.4.1～）

（趣　旨）

第１条　この規則は，熊本大学学則（平成16年４月１日制定）第９条第２項の規定に基づき，熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という．）に関し必要な事項を定める．

（設置目的）

第２条　センターは，熊本大学（以下「本学」という．）に所在する遺跡を発掘調査するとともに，出土した埋蔵文化財を記録，研究，保存及び活用し，もって本学の教育研究に寄与することを目的とする．

（業　務）

第３条　センターは，次に掲げる業務を行う．

(1) 埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること．
(2) 出土した埋蔵文化財の整理・研究，保管及び保存に関すること．
(3) 文化庁等に提出する報告書の作成に関すること．
(4) その他センターの目的を達成するために必要な事項．

（職　員）

第４条　センターに，次に掲げる職員を置く．

(1) センター長
(2) 専任教員
(3) その他必要な職員

（センター長）

第５条　センター長の選考は，本学の専任の教授のうちから，第７条に規定する委員会の推薦に基づき，学長がおこなう．

２　センター長は，センターの業務を掌理する．

３　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない．

４　センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．

（専任教員）

第６条　専任教員の選考は，熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の議に基づき，学長がおこなう．

２　専任教員の選考に関し必要な事項は，別に定める．

（委員会の設置）

第７条　センターの管理運営に関する事項を審議するため，熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会（以下「委員会」という．）を置く．

（委員会の組織）

第８条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する．

(1) センター長
(2) センターの専任教員
(3) 文学部及び教育学部から選出された教授又は准教授　各１人
(4) 法学部，大学院社会文化科学研究科又は大学院法曹養成研究科から選出された教授又は准教授　１人
(5) 大学院自然科学研究科から選出された教授又は准教授　２人
(6) 大学院生命科学研究部の医学系又は医学部附属病院から選出された教授又は准教授　１人
(7) 大学院生命科学研究部の保健学系及び薬学系から選出された教授又は准教授　各１人
(8) 発生医学研究所，生命資源研究・支援センター又はエイズ学研究センターから選出された教授又は准教授　１人
(9) 運営基盤管理部施設管理ユニット長
(10) その他センター長が必要と認めた者　若干人

２　前項第３号から第８号まで及び第10号の委員は，学長が委嘱する．

３　第１項第３号から第８号までの委員の任期は，２年とし，再任を妨げない．

4　第１項第３号から第８号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．
5　第１項第10号の委員の任期は，学長が委嘱の都度定めるものとし，再任を妨げない．
（委員会の審議事項）
第９条　委員会は，センターに関する次に掲げる事項（熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則（平成16年４月１日制定）第３条に定める事項を除く．）を審議する．
(1)　センターの業務に関すること．
(2)　センター長候補者の推薦に関すること．
(3)　施設及び予算に関すること．
(4)　その他センターの管理運営に関すること．
（委員長）
第10条　委員会に，委員長を置き，センター長をもって充てる．
2　委員長は，委員会を招集し，その議長となる．
3　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する．
（議　事）
第11条　委員会は，委員の過半数が出席しなければ，議事を開き，議決をすることができない．
2　委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる．
（意見の聴取）
第12条　委員長は，必要があるときは，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる．
（事　務）
第13条　センター及び委員会の事務は，運営基盤管理部施設企画ユニットにおいて処理する．
（雑　則）
第14条　この規則に定めるもののほか，センターの運営に関し必要な事項は，センター長が別に定める．

附　則
1　この規則は，平成23年10月１日から施行する．
2　国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（平成16年４月１日制定）及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項（平成16年４月１日制定）は，廃止する．
3　この規則施行後，最初に任命されるセンター長は，第５条第１項の規定にかかわらず，この規則により選考されたものとみなす．
4　この規則施行後，最初に任命されるセンター長の任期は，第５条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする．
5　この規則施行後，最初に委嘱される第８条第１項第３号及び第４号の委員の任期は，同条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする．

附　則（平成24年12月27日規則第142号）
この規則は，平成25年４月１日から施行する．
附　則（平成27年３月13日規則第94号）
この規則は，平成27年４月１日から施行する．
附　則（平成28年２月５日規則第９号）
この規則は，平成28年４月１日から施行する．
附　則（平成28年３月１日規則第30号）
この規則は，平成28年４月１日から施行する．
附　則（平成28年9月23日規則第404号）
この規則は，平成28年9月23日から施行する．
附　則（平成29年３月31日規則第153号）
この規則は，平成29年４月１日から施行する．

2．2016年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1　埋蔵文化財調査センター組織

＜センター長＞	（併・文学部教授）	木下　尚子（2011.10.1～2017.3.31）
＜専任教員＞		松田　光太郎
		大坪　志子
		山野ケン陽次郎
＜技術補佐員＞	（2015年５月～）	吉留　広
＜事務補佐員＞	（2016年４月～）	濵田　春美
＜室内作業員＞	（2016年４月～９月）	首藤　優子
		末吉　美紀
	（2016年４月～2017年３月）	園田　智子
		後藤　恵
		増井　弘子
	（2016年５月～2017年３月）	江口　路
		鬼塚　美枝
		小山　正子
		井上　裕美
	（2017年１月～３月）	稲本　奈津紀

2　埋蔵文化財調査センター運営委員会

委員長	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	任期（2015.4.1～2017.3.31）
委員	小畑　弘己	（文学部教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	黨　武彦	（教育学部教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	竹島　一希	（大学院社会文化科学研究科准教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	渋谷　秀敏	（大学院自然科学研究科教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	伊東　龍一	（大学院自然科学研究科教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	宇宿　功市郎	（医学部附属病院教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	米田　哲也	（大学院生命科学研究部保健学系准教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	本山　敬一	（大学院生命科学研究部薬学系准教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	大村谷　昌樹	（生命資源研究・支援センター准教授）	（2015.4.1～2017.3.31）
	齊藤　正実	（運営基盤管理部施設管理ユニット長）	
	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	（2015.4.1～2017.3.31）
	松田　光太郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	
	大坪　志子	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	
	山野ケン陽次郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	

審議事項

2016年７月26日　議題

１）平成28年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定一覧について

２）平成28年度埋蔵文化財調査センター予算配分（案）について

３）埋蔵文化財調査センター規則の一部改正（案）について

４）その他

報告

１）平成27年度埋蔵文化財発掘調査結果一覧について

２）平成27年度埋蔵文化財調査センター予算の支出実績について

３）その他

2017年１月17日　議題
　　１）埋蔵文化財調査センター長候補者推薦について
2017年２月20日　議題
　　１）埋蔵文化財調査センター規則の一部改正（案）及び埋蔵文化財調査センター長候補者の選考方法一部改正（案）について

付篇２　埋蔵文化財調査センター2016年度調査・研究活動記録

【調査員】

大坪志子

＜論文＞

・「弥生時代における九州のヒスイ製勾玉の系譜」『日・韓の装身具』第12回九州考古学会・嶺南考古学会合同学会，九州考古学会・嶺南考古学会，pp.204-219.
・「東釧路遺跡・北斗遺跡出土の石製装身具」『釧路市立博物館館報』№419，pp.3-7.

＜研究発表＞

・「長野市宮崎遺跡出土の縄文時代玉製品の石材産地」第33回日本文化財科学会（2016.6.4-5．奈良大学）（共同：矢野健一・妹尾一樹（立命館大学））.
・「弥生時代における九州のヒスイ製勾玉の系譜」『日・韓の装身具』第12回九州考古学会・嶺南考古学会合同学会（2016.8.19-20．大韓民国 東亜大学校）.
・「A Report on the Changes of Stone Ornaments and Materials in the Jomon Period」The Eighth World Archaeological Congress（WAC-8）（2016.8.29-9.2．同志社大学）.

山野ケン陽次郎

＜論文＞

・兼久式土器に共伴する貝製品の年代と変遷」『第８回奄美考古学会発表資料』，奄美考古学会.
・「琉球列島における縄文時代後晩期の貝製品と製作技術」『第７回沖縄考古学会・鹿児島県考古学会合同学会研究発表会資料集 南西諸島の縄文時代後晩期の南北交流』，pp.35-44，沖縄考古学会・鹿児島県考古学会.

＜研究発表＞

・第１回東アジア先史学談話会 調査報告「熊本地震文化財被災報告－熊本大学－」，2016年７月16日，熊本大学文学部
・第８回奄美考古学会 成果発表「兼久式土器に共伴する貝製品の年代と変遷」，2016年８月27日，奄美市立奄美博物館
・第７回沖縄考古学会・鹿児島県考古学会合同学会 成果発表「琉球列島における縄文時代後晩期の貝製品と製作技術」，2016年11月26日，鹿児島県立埋蔵文化財センター

＜科学研究費＞

・平成27年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究（B）「先史時代における太平洋西部島嶼地域の貝類利用の復元研究」研究代表者

＜その他＞

・「黒髪南キャンパスに埋もれた歴史－遺跡サインとアプリの紹介－」『熊本大学工業会会報』第101号，pp.37-39，熊本大学工業会.

付篇３　埋蔵文化財調査センター2016年度新聞記事

図17　「赤煉瓦基礎確認歴史的価値高く」
（西日本新聞　2016年11月８日22面縮小転載）

図18 「近代建造物 実態探る」
（熊本日日新聞　2016年11月3日、５面転載）

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぽう　23
書名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　23
副書名	
巻次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報
シリーズ号	23
編著者名	伊藤正彦・大坪志子・山野ケン陽次郎・吉留　広
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター
所在地	〒860-8555　熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1　TEL.096-342-3832　FAX.096-342-3832
発行年月日	2017年　月　日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
該当なし	－	－	－	－	－	－	－	－

※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
該当なし	－	－	－	－	－

※本欄には，「発掘調査」を実施した遺跡について記載しているが，本年度は熊本地震による影響で該当事項はない．

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報23
—2016年度—

平成30年３月26日　印刷
平成30年３月30日　発行

編集兼発行者　熊本大学埋蔵文化財調査センター
熊本市中央区黒髪２－39－１
電話（096）342－3832
印刷所　シモダ印刷株式会社

Published by
Research Center for Buried Cultural Properties,
Kumamoto University
Kumamoto, 2018